

FRONTIER



Contents

- ・2016年 新年交礼会 ・クリスマスパーティー2015
- ・5委員長・誌上座談会「同窓会・校友会を熱く語る」
- ・北大ホームカミングデー2015
- ・グローバル同窓生「タイ・ミャンマーで会計事務所を設立」
- ・職場奮戦記 テレビプロデューサー／弁護士
- ・脱サラ応援! 「薬膳スープカレー・シャナイア」／ベルギービール「コム・ラ・ゲーズ」他

表紙の写真 写真提供:北海道大学CoSTEPが運営するFB「いいね!Hokudai」
左)理学部から望む北大第一農場と手稲山、右上)函館港に停泊する水産学部附属練習船「おしよる丸」、右下)構内メインストリート

2016年 東京同窓会 新年交礼会 大野隆明	4
年頭のごあいさつ 杉江和男	6
東京同窓会クリスマスパーティー2015 島田久	8
あの『水曜どうでしょう』のHTB藤村忠寿氏 講演会 西野順子	10
風景との対話「流水に想う」 松田忠好	12
5委員長・誌上座談会 ―同窓会・校友会を熱く語る― 広報委員会	14
北海道大学ホームカミングデー2015	
―第4回 ホームカミングデーを終えて― 北海道大学総務企画部広報課	18
法学部東京同窓会 八谷俊雄	28
第17回 北大・九大合同フロンティア・セミナー	
畠山義彦 北海道大学研究推進部研究振興企画課	30
エルム談話室 平成27年7月～12月までの活動報告 清水慧	32
グローバル同窓生 タイ・ミャンマーで会計事務所を設立 瀬戸山洋介	36
CoSTEPの「サイエンス・カフェ札幌」がグッドデザイン賞を受賞 村井貴	38
北大の研究者たち 火山災害軽減に向けて有珠山での取り組み 宇井忠英	40
職場奮戦記 「テレビの世界」に30年 田中意澄	42
様々な「人生の転機」に立ち会って 田部知江子	44
国際交流 文化・芸術を通じた隣国ロシアとの架橋 大西裕子	46
幻のコーヒー復活物語 宮田喜代志	48
北海道大学ハンドボール部29年振り全道優勝!! 相良信博	50
北大OG会活動報告 ―2015年度秋のOG会― 篠原素子	52
多摩霊園墓参 クラーク遺徳顕彰・墓参委員会 平田更一	53
脱サラ応援! 料理好きが原点、IT会社からの起業 田部井淳	54
定年前の起業、目標の50歳で実現 高木直人	55
名刺広告	56
書評コーナー 『VTJ前夜の中井祐樹』 小泉玲	60
北海道大学の近況 (2015年夏～)	62
4コマ漫画「歳重久人の北大あるある」 高野葵	66
〈お知らせ〉北大東京ジンパ2016	67
総会・講演会・懇親会のお知らせ	68
北海道大学東京同窓会 入会申込書	69
新入会員・訃報	70
北海道の花 「キバナノアマナ」 鮫島惇一郎	72

想像から、創造へ。



次世代を支えるキーマテリアルとして
無限の可能性を秘めたアルミニウム。
私たち日本軽金属の自由なイマジネーションが
アルミニウムの新しい扉を開いていきます。

榎野直広氏 講演会



講演される榎野さん (S58農)



講演会の様子



ほぼ満席になるほどに大盛況



講演者の紹介
高橋さん (S62農)

元・麒麟ビール社長の松沢東京同窓会副会長。私がサッポロビールで乾杯を行うのは……”とのご挨拶で会場から大爆笑が起きました。そんな光景も同窓会ならで



挨拶される杉江和男会長 (S45工応化・院)

は。楽しいひと時はアツという間に過ぎて中締め。今年も趣向を凝らし、「永遠の幸」も唱和することにし、歌い出しは、講師の榎野さんを紹介された高橋広報委員長、そして、締めの定番「都ぞ弥生」の前口上は、講師の榎野さんにお願ひしました。今年も実りある良い年になるように、全員が大いなる気概と元氣をお土産に、「新年交礼会」は無事に閉会し、幸先の良いスタートとなりました。
“Be Ambitious!”



懇親会の様子



乾杯のご発声は松沢幸一副会長 (S48農・院)



フィナーレは「都ぞ弥生」大合唱／ゲストの榎野さんによる前口上



2016年 東京同窓会 新年交礼会



日時：平成28年1月15日(金)18時半～21時

会場：ビヤレストラン新宿ライオン会館6F

総務委員長 大野隆明 (H6水産・院)



素敵な1年のスタートを願う東京同窓会「新年交礼会」。毎年恒例のイベントに、今年も総勢86名が参加し、盛大で楽しい時間を過ごすことができました。
冒頭、杉江東京同窓会会長からは、「中国や原油価格ギリシヤ問題など国際的に経済の不安材料が山積する一方で、たゆまぬ革新で



司会を務める筆者 (総務委員長)

困難を乗り越える気概を持ちましよう」というメッセージがありました。思えば、今年の会場がライオン(サッポロビール)恵比寿から新宿に変更されたのは会場予約が困難だったから。我々同様に気概を持った方々が多く、新年イベントを実施されている良い証しかも知れません。
続いて、今年の講演会を快くお引き受けいただいたのは、平成26年度「日本造園学会賞」を受賞された榎野直広さん。明るい雰囲気のマレーシアの暮しぶりや、緑が青々とする写真を多く紹介され、新年のスタートに相応しい、清々しく楽しいご講演でした。
続く懇親会での乾杯のご発声は

年頭のごあいさつ



北海道大学東京同窓会 杉江和男 会長

新年明けましておめでとうございます。東京同窓会の会長を務めております杉江和男と申します。本日の新年交礼会にお集まりいただきどうもありがとうございます。

さて、年が始まって1日目から株価が300円、500円と日々下がり続けておりまして、1万7000円を切るころまできてしまいました。去年12月のクリスマスパークティの時には、まだ1万9000円台でしたから、まだ日本の経済は大丈夫かなと思っていたのですが、今は状況が変わりました。

これは、中国経済の先行きが非常に見えないということ、もう一つは、原油を中心とする資源価格が非常に下がっているということに起因してのではないかと思えます。言わずもな、中国経済につきまして非常に大雑把に言いますと、中国の給料が上昇して、それで生じたお金を投資する先を考えた時に、ずっと上がり続けるで

あろう株と不動産投資に回ったわけですね。しかし、中国における住宅需要に比べて供給が12倍とか13倍ぐらいの状態が数年続いたことで、当然買う人がいなくなってきた分、景気に大きな影響が出てきたわけです。それは日本の1988年頃のバブルの繰り返しをしていったということだと思います。

また、資源価格につきましては、原油の値段が1バレル・110ドル程度までになつてしまったのですが、調べてみますと、2003年頃まで油の価格は30ドルとか40ドルにはなっていないかです。30ドルから20ドルの間のところを歩き来していたわけですね。過去は10ドルとか10ドル以下だったわけですから、30ドルから110ドルと3倍から4倍になつておりますので、いくら世界に油の需要が増えていっているといましても3倍、4倍はあまりにも機械的なわけですね。

経済学部出身の方とか専門の方がたくさんおられる中で申し上げ

げますが、1988年頃の日本のバブル、そのあと1995、1996年を中心としたアジア地域の経済バブルと2001年のITバブル、その後リーマンショックが2008年です。オーバーヒートというのが必ず資本主義経済には伴うことが過去の結果でありますし、こうした日本の経験などが、ほかの国に活用されないところにはやはり非常に大きな問題があるのではないかなと思っております。

社長職に就いていた2009年頃、約200億円の増資をしようとして申し込んだ次の日に、ギリシャの財政が成り立たないという発表がありました。どんどん株価が下がり、200億円の予定が150億円になってしまったという苦い経験を思い出します。

ギリシャの問題はまだまだ続いておりましたが、実はギリシャの人口は1080万人しかいないわけですね。日本の12分の1ぐらいしかいないわけですね。その年に年間2200万人、つまり全人口の約2倍の外国人観光客が来ています。昨年、日本への観光客は恐らく2000万人ぐらいいまでになっていると思えますが、人口比で考えると0・15倍、0・16倍ぐらいですから、今の10倍以上の観光客が来ないと日本はギリシャ並みに

ならないわけですね。ギリシャに来る外国人観光客が落ちていくお金は、経済に与える影響が非常に大きなものですから、景気が悪くて観光客が来なくなると国の経済自体も成り立たない危険性があることの教訓を私たちに与えてくれていると思えます。

スペインも人口の14倍ぐらいの観光客がありますし、フランスも1・25倍ぐらいあります。もし日本にフランス並みの観光客が来ると、実は日本のGDPが13兆円ぐらいいやめるわけです。しかし、観光客は変動がありますので、それに国の経済が依存しては、やはりギリシャの二の舞いになるという警告だと思えます。私たち日本人にとつては、いい技術とか、いい文化・サービスを世界に紹介していくこと、そして、同時にサービスや製品もイノベーションを起こしていかなければならないということをお話してくれたのだと思えます。2016年はそういう年になつてほしいという私の希望を申し上げたいと思えます。

そして最後に、北大同窓生の皆さんが健康で、お仕事もまたご家庭もよい年になるように頑張ってくださいまして、新年のご挨拶に代えさせていただきます。

そこは
アフリカの大地ではなく、
指紋です。

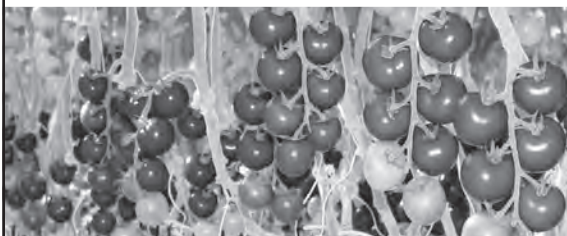
肉眼では絶対に見ることのできない芸術「ナノ彫刻」。
新しい世界は、こんな見たこともない創造から始まる。
できそうもない薬でなければ、私たちが生み出す意味はない。

創造で、想像を超える。



新しい驚きが、始まっています

植物の生育に最適な環境を作り上げたスマートアグリプラント。
エネルギー利用技術をもちいて、苫小牧で新しい農業づくりを進めています。



JFE エンジニアリング 株式会社
JFE <http://www.jfe-eng.co.jp>

東京本社 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-1
(丸の内トラストタワーN館19階)
TEL:03-6212-0800 FAX:03-6212-0802
横浜本社 〒230-8611 神奈川県横浜市鶴見区末広町2-1
TEL:045-505-7435 FAX:045-505-8902

PIANO LIVE BY bisq



足立直子組織委員長より一言 (H12工) 今回もたくさんの同窓生にご参加いただき楽しい時間を共有することができました。年々、若い世代の参加が増え、北大同窓生の輪が広がっていることを実感しております。



オプショナルツアーは、参加者の募集開始後数日で定員になってしまっただけで大人気となりました。羽田空港探検隊長の橋本大志さん (H1・理) のご案内で、誘導路横から地上走行中の飛行機が間近に見える写真スポット、日本航空 (JAL) の格納庫内見学、航空教室、航空ミュージアムを体験して、充実した楽しすぎる羽田空港探検ツアーでした。

クリスマスパーティー
in HANEDA Merry Christmas
2015



日時：平成27年12月6日 (土)
1次会 17:00~19:00
2次会 19:15~21:00
会場：羽田空港第1ターミナル6F
ギャラクシーホール



小坂達朗
北大東京同窓会副会長



山口佳三
北海道大学総長



杉江和男
北大東京同窓会会長

昨年のクリスマスパーティーは、12月6日 (日) 17時より、羽田空港第1ターミナル内ギャラクシーホールで行われました。美しい夕焼けや夜景をバックに、目の前には飛行機が次々と離着陸する滑走路が広がり、普段見られない光景におのずとテンションが上がります。
杉江東京同窓会会長、山口北大総長のご挨拶に続き、小坂東京同窓会副会長の乾杯でパーティーが始まりました。今年の司会者は楊ショウさん (H25環境科学院)、辻本陽

平さん (H25情報院) です。会場には、クリスマスパーティー前のオプショナルツアー「羽田空港探検ツアー」に参加した小学生のご家族連れ、夫婦での参加者も見られ、同窓会ならではのアットホームな雰囲気の中で終始賑やかにパーティーが進行しました。
また、同窓生の方々からボジョレー・ヌーヴオーやスイーツ等、数々の素敵なクリスマスプレゼントをご提供いただき、パーティーの盛り上げに花を添えていただきました。どうもありがとうございました。
〈サンタの皆さま〉
石川裕一様 (ふらう)、石山喬様 (日本軽金属ホールディングス)、伊藤聡様 (信越放送)、小坂達朗様 (中外製薬)、杉江和男様 (東京同窓会)、JALグループエルク会様、谷藤公貴様 (日大板橋病院)、中西克彦様 (BAKE)、丹羽弘様 (東京フード)、樋口達夫様 (大塚製薬)、細見典男様 (日本水産)、山口佳三様 (北海道大学) 《50音順》
(島田久 S61工)

あの『水曜どうでしょう』のHTB藤村忠寿氏講演会



藤村忠寿 (ふじむら ただひさ)

昭和40年愛知県生まれ。名古屋市立向陽高校卒業後、北大法学部へ入学。平成2年北海道テレビ放送に入社、平成8年に「水曜どうでしょう」の立ち上げチーフディレクターに就任。言わずと知れた人気番組に成長させた。平成15年には全作品がDVD化され、これまでの売上げ枚数は400万枚。バラエティ番組のDVDとしては、異例の売上げとなる。昨年からは舞台の役者としても活躍し、現在、HTBコンテンツ事業室エグゼクティブディレクターを務めている。

部卒)をお招きし、熱い講演会が開催されました。北大同窓生の「水曜どうでしょう」ファンにとっては

平成27年7月11日、梅雨明け早々、板橋区立文化会館において、「水曜どうでしょう」でお馴染みの北海道テレビ放送 (HTB) の藤村忠寿ディレクター (平成2年法学

員が約半分、年代では20代から30代が42%でした。参加者の中には長野県からお子様を連れて来られた方もいて、「水曜どうでしょう」のファン層の広さを感じました。

◆講演会までの経緯
若い世代の同窓会離れという現象を食い止めようと、東京同窓会の組織委員会は、数年前から若いメンバーがイベントを企画してきました。そんな中、若い世代が憧れている「水曜どうでしょう」の藤村さんを取り上げたら、若い同窓生の集客ができるかもしれないという意見が飛び出しました。早速、3人の委員が藤村さんに会いに札幌まで行ったというのが始まりでした。その後、2年越しで念願かなって講演会を開催する運びとなりました。

◆トークイベントの様子

参加者の拍手で迎えられ、藤村さんが登場するも、自ら演台をよけて椅子に座るといふ立振舞いとその絶妙な間を皆を笑わせ、その場が和みました。「今日は僕の思いついたことを話していこうと思います。」というところで藤村さんの話が始められました。

〈中学・高校時代〉名古屋出身の藤村さんは中学・高校を通じて



第2部の質問コーナーに登場した方々。テレビ番組の制作に携わっているパネラーへのアドバイスやDVD制作の秘話、会社との関係などの話でディスカッションは盛り上がりました。

欄には「帰ってくるかどうかかわからない」と視聴者の目を引くように掲載しました。それから「縦断、制覇等の入った企画」をどんどんやっていって、なるべく早目に海外に行きたいと思いついて、1996年10月に番組が始まって、年明けにはオーストラリア大陸縦断を敢行することになったということでした。

斬新な番組を制作している藤村さんですが、意外にも「挑戦」という言葉が嫌いだそうです。また50歳を超えて、牽引していく立場として、人を配置したり、育てようとする時には、その人にできることや好きなことをやらせてあげたい、という言葉で締めくくりました。

◆パネラーによる質問コーナー

パネラーは希望者の中から駒崎絵美さん (H15年国際広報メディア研究科院)、北越大輔さん (H15年工学研究科院)、佐藤晋太郎さん (H24理学研究科院) の3人が選ばれ、ファシリテーターは、司会の芦田涉さん (H23理) と河野桃さん (H26法) で進められました。

◆終わりに

恒例の集合写真を撮って閉会と



(H1農 西野順子)

なりました。藤村さんには、今回の講演会を引き受けて下さり感謝しております。藤村さんは、人脈を大切に、面白い番組を作りたいというこだわり、視聴率へのこだわり、そして高いプロ意識を持っている方でした。あと数回講演できるのではないかと感じるぐらいの引出しの多さに感動しました。また、開催するに当たり、東京同窓会の方々に支援を頂き、また20代の若手メンバーを暖かく見守って下さり、本当にありがとうございました。

も走っていない夜明けの道を皆でなんの意味もなく、車に乗って石狩浜の辺りの海まで行って、(中略) 4人の男達が、窓を全開にして、車で走って見る景色というのは、男達には似合わないくらい綺麗で、なぜか心が浄化された気持ちになって、「良かったな」なんて言いながら帰って、授業を出ずにまた寝る、という怠惰だけれど何かそこに大切なものがあるような気がした」という大学時代の情景が忘れられなくて、「水曜どうでしょう」のような番組をずっとやりたいて思っていたそうです。

〈HTB東京支社〉バイトがきっかけでHTBに入社。北海道に骨を埋めるつもりでしたが、配属先は東京支社でした。スポーツデスクという視聴率表をチェックする担当を5年間やりました。テレビのCMは視聴率で売っているようなもので、視聴率が高くないとテレビ局は儲からない仕組みであり、どのテレビ局も視聴率は、本当に死活問題です。当時のテレビ朝日系列の視聴率は低く、その中でもHTBは低視聴率。藤村さんは「視聴率が低くても道民のためになればいい」と言うけれど、テレビは視聴率が高くないと駄目だと思っていました。

〈本社制作部〉その後、制作部に異動。ローカル局に興味のない藤

理想のイメージを
形へ創り上げる。

商業施設などプロパティマネージメントをはじめインテ
リアデザイン、企画、設計、施工を手掛ける札幌の企業
です。

株式会社コーシンプランニング
代表取締役 片岡 幸三
〒062-0935 札幌市豊平区平岸5条9丁目6番24号
TEL 011-841-5588 FAX 011-841-5599
http://www.koshin-pl.co.jp

東京基準より北海道基準、北の夢。

☆ ぷらう

代表取締役社長 石川 裕一

株式会社 ぷらう

〒060-0063

北海道札幌市中央区南三条西4丁目12-1 アルシュビル8階

TEL : 011-219-2223 FAX : 011-219-2885



「流水・暮色」 油彩162.1×130.2cm 2009年作

風景との対話

「流水に想う」

松田忠好 (S32・林学)

北大を卒業してまもない頃、山口林次郎君と私は、仕事は異なりませんが、オホーツク海に面している網走支庁管内に職場が有りました。

その頃は、流水が来ると、漁港が閉ざされ、寒さが一層厳しくなるため、流水は、いわば招かれざる客の感がありました。また、戦後間もない食糧難時代に、網走地方を視察に来た、さる国会議員は、一面の流水原を眺めて、「さすがに北海道は広い、開拓できる平地はいくらでもあるではないか」といったとか。

山口林次郎 (句)

厳しさの一入ませり流水来

(海の遠くに見えていた白い線が、一夜明けると、
厳しい寒さとともに、流水が、ぎっしりと接岸している)

流水の哭く声忘れ幾年ぞ

(流水の塊が、波や風で動くとき、氷塊どうしの、
ギイギイと軋む音を聞くことができる)

流水の去りしと汝の媿笑み

(若かりし頃、歓迎されざる客だった流水が去って、
ホッとしている老婆の笑顔が見えるようです)

(感想、松田)

〔註〕山口林次郎…昭和32年農学部林産学科卒

俳人協会会員、俳誌「屋根」会員・同人、東京都杉並区在住

同窓会・校友会を熱く語る

日時…平成27年12月4日(金)20時
場所…東京同窓会事務所



ごさいます。フロンティアで委員長による誌上座談会という企画を考えまして、ざつくばらんにやりたいと思っています。では、皆さんの委員会の仕事の説明をお願いします。

菅野…財務委員会は、要するに数字の管理をするところですけど、数字は基本的には、事務局の廣重さんがやってくれているので、基本的には、廣重さんが作った数字をチェックするだけです(笑)。

いえ、毎月のように新しいニュースが入ってきます。掲載する作業自体は、私たちがパソコンをバババンと叩いている訳じゃなくて外注です。ホームページのトータル的なデザインをどうしようとか、季節感を持たせるために背景の写真を選ぶとかの作業をしています。どつちかというところとデザイン的な仕事に近いですね。

北大東京同窓会の主な事業は、5つの委員会によって運営されています。5人の委員長の目に映る同窓会のあり方や、現在進行中の「校友会構想」について、思いを語っていただきました。

**委員会の仕事説明

高橋…師走ご多忙の折、皆さんご参集いただきました。ありがとうございます。

一同…(笑)。
菅野…言わない方がよかつたかな(笑)。何を楽しみにやつてるかという側で人が動いているいろいろやつているからこそ出てくる訳ですよ。つまり、お金がからむ裏側が見える位置にあるんですよ。同窓会の場合、やる気があればどんなやつていいよ、という気風があるので、そういう意味ではやる

松谷…情報処理委員会は、ざつくり言えば、ホームページのメンテナンスとメルマガの発行という、2つの大きな仕事をやっています。情報処理委員会というので、情報系の人しかいないような雰囲気ですが、すごく文系チックな仕事をしています(笑)。

足立…組織委員会は、分かりやすく言うと、同窓生の親睦を深めるために、みんなで集まって、何かを企画して、それを実行する親睦係のような仕事ですね。いろいろなイベントをみんなで企画し実施して、それで、若い人を集めてくるというミッションもあると思っています。かつて先輩方が始められた新社会人歓迎会、平成勉強会、クリスマスパーティーなどを

引き継いで、自分たちは3年前に「東京ジンパ」を企画して始めました。

今の行事以外にも、誰もが新しい提案をできるし、自分でリーダーにもなれるので、若い人たちは委員会に参加して、企画して、運営して、集客する、プロジェクトマネージメントみたいなことをやってほしいなと思っています。そういうことをもつとサポートしていきたいですね。

大野…最近のクリパ(クリスマスパーティー)とか、ジンパ(北大東京ジンパ)は、お客さんもたくさん集まってくれます。すごいイベントになりましたよね。

足立…そうですね。こういうことにチャレンジする若者を、もっと見つけたいです。どうやって、見つけたらいいのかなって思案中なんです(笑)。

菅野…組織委員会は、人材育成の側面もあるかなと思っています。ここで、そういうプロジェクトマネージメントとか、イベント立ち上げとかを経験して、自分のキャリアアとして身に付けてもらって、仕事の場面でも力を発揮できればいいですよ。

足立…イベントの実行委員長を1回やると、絶対に達成感を感じてもらえると思いますし、人間的にも成長できると思っています。

大野隆明 総務委員長 (H6水産・院)
DICの社長をされていた杉江東京同窓会会長の秘書役として入会する。座談会当日に海外出張から帰国したため、自宅からスカイプでの参加。



足立直子 組織委員長 (H12工)
会社の先輩に「東京同窓会にすぐ面白い女性がいるから来てみない」というキラワードに誘われ、飲んで食っている間に組織委員会に入っていた。



菅野 聡 財務委員長 (S62法)
法学部の同級生から「急用が出来て、どうしても行けなくなったので代わりに行ってくれ」と泣きつかれ総会に参加したことが同窓会との出会い。



高橋 寛 広報委員長 (S62農)
競技スキー部OB会東京支部長の推薦、石山前東京同窓会会長の指示、陣谷元広報委員長の面接(飲み会)を経て、東京同窓会に強制入会。



松谷 寛 情報処理委員長 (S52工)
15年ほど前に、教養クラス&学科&講座も一緒にの友達から入会を誘われて入会。情報処理委員会は10年前から担当している。



高橋…広報委員会は、東京同窓会のさまざまな事業を紙媒体を通じて発信することが仕事です。このフロンティアの発行が一番ウエイトの大きな仕事ですが、そのほかに、卒業生が東京同窓会へ入会するように、卒業式でパンフレットを配付したり「ジンパ」のポスターを作ったり、大学内の掲示板に掲示してもらっています。普段から、同窓生の活動や大学のイベントなどの情報収集を出来るだけ心がけています。

菅野…私案ですが、(校友会の体制に対応するためには)札幌側にも受け手となる財務委員会の人を置いてもらいたいと考えています。たぶん、ほかの委員会も東京同窓会とパラレルで動けるような人を札幌側に置いて、連携できる体制作りが必要なのではないかと思っています。最初のうちは、たぶん、東京と札幌と行ったり来たりしながらになると思います。

菅野…いや、学部が全部集まるようなジンパっていうのはやってないと思いますよ。近い仲間だけ集まってやらないから、そういう企画はいいとは思いますが。

足立…今度、会員が学生じゃない

大野…今進行している校友会構想では同窓会の組織を建付けを大きく変えようとしていて、総務委員会としては、こちらの事務方と本

高橋…えっ、それ難しいな。会社を辞めるまでは(笑)。

松谷…いや、学部が全部集まるようなジンパっていうのはやってないと思いますよ。近い仲間だけ集まってやらないから、そういう企画はいいとは思いますが。

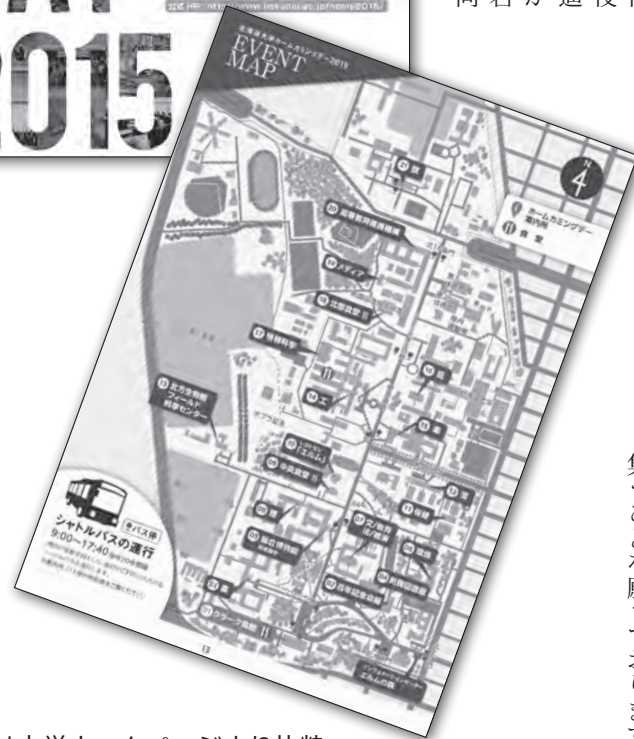
足立…でも、それを東京から仕掛けてやるのも、おかしいです。ね。



北海道大学 ホームカミングデー 2015

第4回 ホームカミングデーを終えて

北海道大学総務企画部広報課



広報室総務補佐 西口 規彦
9月26日(土)、「Be ambitious again」をモットーに、「北海道大学ホームカミングデー2015」を開催しました。少し肌寒い秋らしい天気の中、多くの同窓生が札幌キャンパスに集い、盛況のうちに幕を閉じました。
同窓生を迎えるに当たり、全学行事と部局・同窓会が主催する行事を企画しました。全学行事としては、クラーク会館講堂を会場に「歓迎式典・記念講演会」を開催しました。講演会に続いて、現役学生による歓迎のステージ、恵迪寮同窓会の有志による寮歌斉唱が行われ、様々な世代の同窓生が若い世代の学生達と一堂に会し、同

窓生同士のさらなる繋がりを期待できる会となりました。
全学行事の終了後は、ほっかいどう同窓会が主催するランチパーティーで交流を深め、学生時代を懐かしみながら各学部等へ足を運ぶ同窓生が多く見られました。
多くの部局や同窓会が25日(金)から26日(土)にかけて、ホームカミングデー開催に合わせて講演会や研究室見学会、懇親会、同窓会総会などを開催し、まさに大

学全体の同窓会となりました。各部局ではそれぞれ、現役学生と同窓生、旧教職員との交流を図る企画を実施したり、在学生の家族が参加する企画を行ったりと、様々な形の交流の場が広がりました。
次回、第5回のホームカミングデーは来年、平成28年9月24日(土)を予定しています。来年も各部局・同窓会等のご協力を得て、同窓生の皆様に喜んでいただけるイベントにしていきたいと考えています。再び多くの同窓生が集うことを願っております

記事は本学ホームページより抜粋。

詳しくは：[北大ホームカミングデー](#) [検索](#)

全学行事

総務企画部広報課

歓迎式典・記念講演会

9月26日(土)10時~11時45分
クラーク会館講堂 参加者約2600名

ホームカミングデーの全学行事として「歓迎式典・記念講演会」を行いました。

会場となったクラーク会館講堂が多くの同窓生や関係者で埋まるなか、北海道大学交響楽団の演奏四重奏による「都ぞ弥生」「永遠の幸」の演奏で式典は幕を開けました。

司会は本学経済学部卒業生である北海道放送(HBC)の船越ゆかりさんが務め、最初に、山口佳三総長が「進化する北海道大学」と題して本学の近況を報告し、「同窓生の皆様には本学の強力な応援団になっていただきたい」とのメッセージを伝えました。次に、石山喬北海道大学連合同窓会会長が歓迎の挨拶として、国立大学を取り巻く環境とともに、連合同窓会の果たす役割や意義について話されました。

続いて、小惑星探査機「はやぶさ」のプロジェクトに携わる理学研究院の根本尚義教授が「こころまわかった!『はやぶさ』による



歓迎の挨拶を述べる石山会長



本学の近況を報告する山口総長



司会を務めた船越さん



講演する根本(ゆりもと)先生



アウロラによる歓迎のステージ



交響楽団による演奏



恵迪寮同窓会有志の皆様



「都ぞ弥生」斉唱で参加者が一体となった会場

科学 何がわかる? 『はやぶさ2』による科学と題して講演し、わかりやすくユーモアを交えながら研究内容を説明しました。

会場に素敵な音色を響かせてくれました。
ステージの締めくくりは、「都ぞ弥生」の斉唱です。斉唱時には恵迪寮同窓会の呼びかけで役員等もステージに上がり、客席の方々も席を立ち、隣の方と肩を組み、会場が一体となりフィナーレを迎えました。同窓生の皆様には本学

の「今」を体感していただけたことと思います。
また、式典開始前には、オープンエデュケーションセンターの藤田良治准教授が制作した映像を会場内スクリーンで上映し、本学の特色や色彩豊かなキャンパスを紹介しました。

部局・同窓会主催行事

文学研究科・文学部 教育学院・教育学研究科・教育学部 法学研究科・法学部 経済学研究科・経済学部

公開シンポジウム「北海道新幹線開業が意味するもの」
同窓会総会&合同懇親会

9月26日(土) 14時~19時
人文社会科学総合教育研究棟
(W棟)103室等 参加者171名

文学部・教育学部・法学部・経済学部の4部局による共同開催として、「北海道新幹線開業が意味するもの」津軽海峡を越え北へ、そして未来へ向けて」と題し、北海道新幹線が北海道経済に与える影響などについて考えることを趣旨に公開シンポジウムを開催しました。

本シンポジウムは、山口佳三総長の挨拶後、前半は、3人の講師による各講演が行われ、後半は吉



講演する小林氏



パネルディスカッションの様子

公開講演会終了後は、各学部同窓会による総会、次いで、文学部・教育学部・法学部・経済学部同窓会による合同懇親会が行われ、学部を超えた交流を深めました。

医学研究科・医学部

北海道大学医学部フラテ祭 2015

9月26日(土) 14時~19時
医学部学生会館(フラテ)
参加者141名

第1部の施設・キャンパスツアーでは、教員がツアーコンダクターとなり、参加者を案内しました。今年度は「陽子線治療センター」が新たな見学場所となり、参加者は大変興味深そうに説明に耳を傾けていました。また、バスで構内の名所を巡り、参加者は解説を聞きながら見学を楽しまれました。

第2部の講演会では、笠原正典医学部長、資金清博北海道大学病院長、公益財団法人札幌がんセミナーで理事長をされている小林博北海道大学名誉教授が講演を行いました。小林名誉教授の「がんに挑む がんに学ぶ」と題した講演



陽子線医療センターの見学の様子



講演する小林名誉教授



医学部公認サークルによるフラテ祭交歓会の様子

は、特に興味をそそる内容であり、参加者は熱心に聞き入っていました。講演後は第11回目となる音羽博次奨学基金授与式が行われ、笠原医学部長より12名の学生に奨学金が授与されました。第3部の交歓会では、フラテホールにて北海道大学合唱団とピアノ伴奏による「都ぞ弥生」「学友会歌」の合奏が披露され、その後、大研修室へ場所を移し、祝宴を開催しました。祝宴半ばで、医学部公認サークルによるサークル活動の紹介がありました。現役学生による発表は大変好評で、学生父母から「文武両道で活躍する姿を見ることができて良かった」との感想をいただきました。現役学生・学生父母・同窓生・教員が一堂に会し和やかな歓談のひと時を過ごし、交流を深めることができました。

保健科学院・保健科学研究科・医学部保健学科

保健科学研究科 ホームカミングデー

9月26日(土) 13時30分~16時10分
保健科学研究科 階大会議室 参加者60名

伊達広行研究院長の開催挨拶に始まり、分野紹介では、最近の教育研究について紹介し、講演会では、高室典子氏(ekbサービス(助産院エ・ク・ボ)代表取締役、一般社団法人北海道助産師会会長)に、「出会う母親たちが教



開会挨拶をする伊達研究院長



高室講師による講演



熊澤講師による講演

えてくれた大切なことー地域における助産師活動を通してー」と題し、フロンティア精神をもつ助産師が社長になり、地域でおこした新しい事業展開とそこから生み出されたものについてお話しいただきました。

次に、熊澤誠志氏(北海道科学大学保健医療学部診療放射線学科教授)に、「試される大志と題し、クラーク博士に促されて抱いた大志とともに、紆余曲折、七転八倒、走りながら考える日々の進捗をお話しいただきました。

獣医学研究科・獣医学部

獣医学部同窓会平成27年度通常総会、フォーラム「はばたけ未来のフロンティア・ベッツ」

9月26日(土) 13時~18時30分
獣医学部講義棟会議室・講堂
参加者約84名

午後1時から開催した獣医学部同窓会平成27年度通常総会では、53名の同窓生にご参加いただき、平成26年度事業報告・決算の承認や平成27年度事業計画・収支予算案など、計5号の議案について審



参加者の記念写真



フォーラムで講演する同窓生



フォーラムで質問する学生



懇親会の様子

議しました。その後、84名の同窓生及び学生が参加して開催したフォーラム(交流会)では、「はばたけ未来のフロンティア・ベッツ」と題して卒業後10~60年目の各世代の同窓生

6名より、ご自身の経験をお話しいただくとともに、就職を控えた学部5年生に向けてアドバイスやエールのお言葉をいただきました。各講演に対して5年生2~3名ずつに自分の将来の方向性を見据えた上で講演者に質問をしてもりました。

歯学研究科・歯学部

最新の歯学研究と歯科医療を知る

9月26日(土) 13時30分~15時30分
歯学研究科A棟2階歯学部講堂
参加者約9名

講演会では、横山敦郎研究科長・学部長が歓迎の挨拶を述べた後、本年4月から使用可能となった多目的会議室等、新たな施設の説明や現況報告を行いました。引き続き、歯科医療及び研究の

最新トピックスについて、本研究所所属の各分野の教員が報告を行



横山研究科長・学部長の挨拶



飯田副院長によるセンター紹介

いましたが、参加者はメモをとるなどしながら、各教員の説明に熱心に聞き入っていました。

その後、飯田順一郎副病院長(歯科担当)が、一昨年に移転を終え、診療を開始した歯科診療センターの紹介を行いました。

懇親会は、約70名の学生・同窓生の参加があり、交流を深めることができました。ホームカミングデーを同窓生に浸透させる意味で、事前に卒業後節目の年となる各世代にホームカミングデーに合わせて同期会の開催をお願いしたところ、平成7年卒業の約10名の同窓生が交流会と懇親会に参加し、大変盛況の会となりました。

情報科学研究科

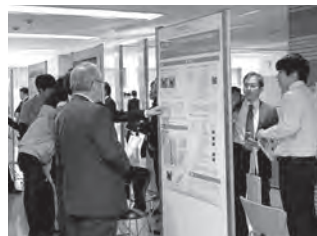
北楡会母校交流会

9月25日(金)13時30分~19時30分
情報科学研究科 参加者79名

9月25日(金)、工学部情報工
レクトロニクス学科、情報科学研究
科及び旧電気、電子、情報、生
体系の各学科の同窓会である北楡
会が、母校交流会を行
いました。



村山教授の講演



ポスター展示

最後に、工学部食堂に場所を移
し、立食パーティ形式で懇親会を
行いました。OB・OG26名、職
員・学生53名の合わせて79名が参
加し、ポスター発表
の表彰、情報エレク
トロニクス学科の近
況、学生の就職の話
題等で大いに盛り上
がりました。最後は
北海道大学応援団の
リードにより「都ぞ
弥生」を歌い、散会
しました。

水産科学院・水産科学研究院・
水産学部/北水同窓会

水産学部卒業生のつどい・講演会

9月26日(土)14時~16時
百年記念会館大講堂 参加者48名

本学部卒業生の加藤秀弘氏(東
京海洋大学教授)による講演会
を、午後2時から百年記
念会館大講堂において
行いました。

講演会に先立ち、安井
肇研究院長から昨年竣工
したおしよ丸の紹介や



横山北水同窓会
会長の挨拶



加藤氏による講演

環境科学院・
地球環境科学研究院
松野環境科学賞授賞式
修了生講演会 ほか

9月25日(金)14時~19時30分
授賞式講演会展示:環境科学院
懇親会:大学生協北館食堂 参加者89名

環境科学院では、修了生の経験
や実社会の状況を
在學生に届けて活
かしてもらえよう
う、在學生に多く
集まってもらえる
金曜日にホームカ
ミングデーイベントを
開催しました。



修了生講演会



松野環境科学賞
授賞式記念撮影

講演会後は、場所を移
して懇親会を行いました
が、卒業生や学生、教員、
今回の講演者、受賞者が
集い、会食・懇談を楽し
みました。

教育研究活動の近況報告の後、横
山清・北水同窓会会長(北海道大
学連合同窓会副会長)から、学生
当時の思い出を交えながら挨拶が
ありました。続いて、講演会では、
加藤氏から「鯨類が目指す二

つの道」と題し、大きく2つの分
類に分かれるクジラの進化や生態
の違い、また捕鯨に関する世界情
勢や国際会議の動向を踏まえた捕
鯨問題についてお話をいただきました。
会場には、同窓生、教職員、
学生あわせて50名ほどが出席し、
講演終了後は、出席
した学生が講師を囲み懇談
するなど、和やかな雰囲気
のなか盛況のうちに閉会と
なりました。

理学院・理学研究院・理学部
生命科学・先端生命科学
研究院/理学部同窓会

理学部ホームカミングデー

9月26日(土)13時30分~18時
理学部2号館玄関ロビー他 参加者89名

4回目となる理学部ホームカミ
ングデーに合わせて、今年も理学
部同窓会の総会を開催しました。

2号館玄関ロビーを会場に、石
森浩一郎理学研究院長・理学部
長、高橋孝行同窓会理事長の歓迎
挨拶の後、石森研究院長が近年の
改組により複雑化した研究院・学
院組織の説明や、理学部をめぐる



同窓会総会の様子



石森理学研究院長の近況報告



交流会で挨拶する山口総長



同窓会奨学生の発表

高橋同窓会理事長の閉
会挨拶・乾杯の後、同窓
生は出身学科の教員の案
内でも理学部建物に戻り、
研究室見学、現役学生・
教員との懇談会にて交流
を深めました。

最近のトピックスに関して報告が
ありました。
次いで、同窓会からの奨学金に
より海外の国際会議等において研
究発表を行った大学院生3名が、
旅行中のエピソードを交えた発表
を行いました。
その後、理学部同窓会通常総会を
2号館講義室で開催しました。例年
どおり多くの同窓生に出席いただ
き、同窓会の運営に関して熱心な質
問や意見交換がなされました。
総会終了後、教職員と同窓生は
フアカルティハウス「エンレイン
ウ」に移動し、理学部&同窓会交
流会に参加しました。石森研究院
長の挨拶の後、数学科
出身の山口佳三総長によ
る、本学の教育研究活動
の様々な取り組みの紹介
と乾杯の発声で交流会が
幕明けしました。立食形
式による1時間半ほどの
会でしたが、懇談の合間
には、現職教員から各学
科の近況報告がありまし

農学院・農学研究院・農学部
市民公開・農学特別講演会

9月25日(金)13時30分~15時40分
農学部大講堂 参加者1322名

農学院・農学研究院・農学部
は、札幌農林学会・札幌農学同窓
会とともに、同窓生、市民、教職
員、学生を対象として、9月25日
(金)に農学部大講堂において、
市民公開農学特別講演会を開催し
ました。この講演会は、明治31年
に発足した札幌農林学会が開催し
てきた学術講演会を継承・発展さ
せたもので、100年以上の歴史
があり、平成9年から現在の名称
に改め、広く一般市民の方々に公
開しています。

横田篤研究院長(農学部長)の
挨拶の後、農学研究院の岩間和人
特任教授より「おいもわかきもお



会場を埋め尽くす多数の参加者



岩間特任教授



丸谷特任教授

同窓生だけではなく多くの一般市民に
もお越しいただき、
大講堂が満員になる
1322人の参加とな
りました。

土砂の大きな動
きのなかで災害を完
全に防ぐことは不可
能で、減災を目指
し、最後は避難する
備えの重要性を指摘
しました。

続いて、農学研究院の丸谷知己
特任教授より「土砂災害から命を
守るー山はいかに崩れ、土砂はい
かに運ばれるのかー」と題して講
演がありました。九州で20年もの
間継続して溪流の計測を続けて土
砂移動のメカニズムを解明したこ
とや、ニュージールランドでの土砂
運搬の解析など、「地球と格闘」
してきた研究の紹介がありまし
ました。

**国際広報メディア・観光学院
メディア・コミュニケーション研究院
HCD@IMCTS 修了生
meet 在学生**

9月26日(土)13時~20時
メディア・コミュニケーション研究院
メディア棟 参加者80名

国際広報メディア・観光学院のホームカミングデーは、今年も本学院の学生が制作した「学院PRビデオ」の放映で開幕しました。修了生講演会第1部では、名塩征史氏(静岡大学グローバル企画推進室特任助教)より、「日常のコミュニケーションを支える〈知〉の探求・日本語教育・相互行為分析を通して」と題して、また、第2部では赤穂雄磨氏(観光創造ラボ代表社員)より「観光業における起業の実務・知っておくべきお徳な!情報」と題して講演いただきました。

在校生パネル討論会「在校生と考える夕張の過去・現在・未来」では、国際広報メディア専攻及び観光創造専攻の両専攻の博士後期課程学生をメインとして、財政破綻からの再生を目指す夕張の実態や今後の活動をテーマにディスカッションを行い、本学院の伝統であるプロジェクト型演習を再現しました。聴衆からも活発な質疑応答が行われ、見所のある催しとなりました。

薬学研究院・薬学部

薬学部創立60周年記念講演会

9月26日(土)15時50分~16時40分
薬学部臨床薬学講義室 参加者130名

薬学研究院・薬学部は1954年に医学部薬学科として設置され、昨年で創立60周年を迎えました。昨年は建物の改修・改築工事の途中であったため、工事が終了した今年、ホームカミングデーにあわせて、「北海道大学薬学部創立60周年及び総合研究棟建築・管理研究棟改修完成記念行事」を執り行いました。

記念式典の後、

ホームカミングデーの企画として

開催した「創立60周年記念講演会」では、本学部17期(S49)の堅田利明先生(東京大学大学院薬学系研究科教授)に、「北大薬・卒業研究で見出したGタンパク質に魅せられて」と題し、本薬学部での卒業研究をきっかけとして発展されてきたご自身のこれまでの研究の流れを、当



発表する堅田教授



発表する松田特任教授

発表する松田特任教授は、18才人口が減っていく我が国において、今後大学が直面すると予想される問題及びそれに次世代の大学関係者がどう対処していくべきか、などに関してのお話がありました。講演会終了後、同窓生対象に改修・改築工事が終了した建物の内覧会を行い、新装した研究室や実験室を見学していただきました。同窓生は在籍していた頃の様子との違いに驚かれたり、懐かしんでいただいた様子で、予定時間を超過し好評のうち終了しました。

なりました。同窓会総会では、札幌、東京、北京における活発な活動について報告が行われ、今後、同窓会の組織率をさらに高めていくことを課題に挙げました。続く懇親会は修了生、教員、在学生や本学院のOB教員で賑わい、盛会のうちに終了しました。

工学部・工学研究院・工学部

北海道大学工学系イノベーションフォーラム2015

9月26日(土)13時30分~16時15分
情報科学研究科A21教室
2階ロビー参加者88名

本フォーラムは、工学研究院における地域連携や社会連携に向けた研究を支援することを目的とした工学系連携推進部と、工学部情報エレクトロニクス学科及び情報科学研究科の同窓会である北楡会の共催事業として実施しました。開会の挨拶の後、講演の部の最初に、北海道ガススマートエネルギー推進部の栗田哲也部長から「エネルギーの高度利用技術とスマートエネルギーネットワーク社



北海道ガスの栗田氏

北方生物圏フィールド科学センター

**「生物生産研究農場」ミニツアー
植物園の見学**

9月26日(土)
ミニツアー/14時30分~15時、
植物園/9時~16時
生物生産研究農場、植物園 参加者30名

時の思い出話を交えてお話しただきました。引き続き行われた、15期(S47)松田彰先生(本学薬学研究院特任教授、前薬学研究院長)の「大学の大量化から淘汰の時代を迎えて」と題した講演では、少子高齢化が進み、

会し期待が高まる工学および情報科学の役割」について発表が行われました。続いて、情報科学研究科の村山明宏教授から「電子と光の情報を結ぶ・量子ドットが拓く未来の光情報変換」について発表が行われました。

北工会サークル展示

9月25日(金)16時~20時・26日(土)9時~17時
工学部正面玄関ホール

工学部正面玄関において、北工会(工学部の教職員・学生等の親睦団体の公認サークルによる作品(書道、写真、生け花)を展示しました。



サークル展示の様子

・世界に幸せをもたらす工学 9月26日(土)13時30分~16時 工学研究院 参加者233名

- 社会基盤学コース・国土政策学コース「土木実験棟への思いと今後の土木教育」**
①現土木実験棟・新棟建築場所ツアー ②OB、学生、教員による土木教育に関する意見交換
- 建築都市コース**
①学生による研究室紹介(優秀発表の表彰あり) ②OB・OGと学生との座談会
- 衛生環境工学コース「世界で活躍する環境工学」**
①講演会 ②OBからの話題提供による座談会 ③パネル討論、学生との懇談会
- 資源循環システムコース「未来の資源教育を考える」**
①講演会 ②教員・学生・OB/OG・講演者によるディスカッション

・保護者、OB、OGとの全体懇親会 9月26日(土)16時~17時 工学部食堂 参加者131名

工学部食堂において、工学部のOB・OGである同窓生や保護者の方を多数お迎えし、全体懇親会を開催しました。保護者の方が参加される懇親会は、工学部では初めての試みでしたが、70名近い保護者の方々を含む、総勢130名以上での大規模なものとなりました。懇親会の冒頭では、名和豊春工学部長からの挨拶があり、引き続き、馬場直志工学部同窓会理事長からご挨拶をいただいた後、石山喬北海道大学連合同窓会会長による乾杯の発声で歓談に移りました。参加された保護者の方々は、現役教員や他の保護者の方と熱心にお話をされており、また、同窓生の方々も級友との再会を大いに楽しんでおられました。最後は小林幸徳工学研究院副院長からの閉会の挨拶により、盛会のうちに終了しました。



名和工学部長による挨拶
石山北海道大学連合同窓会会長による乾杯



生物生産研究農場

「生物生産研究農場」ミニツアーには、9名の参加者があり、放牧地、牛舎及びススキ試験圃場で山田敏彦農場長が説明を行いました。参加者からは、身近に作物や家畜に触れられたと、好評で

附属図書館

**「北海道の地名展」パネル展示
「TEDxHokkaido」連携図書」展示**

9月26日(土)9時~19時
附属図書館本館ロビー&オープンエリア
参加者10名

本館内の自由見学と、ロビーにおいて「北海道の地名展」と題した地名の由来・語源等のパネル展示(7月1日~9月30日)、オープンエリアにおいて「冒険の誘惑」と題した「TEDxHokkaido」連携図書」展示(9月24日~10月13日)をご覧いただきました。北海道の地名は、「空知」(ソラ



ロビーでのパネル展示



オープンエリアでの図書展示

図書展示しました。ホームカミングデー当日の見学者は少なかつたのですが、展示期間中は多くの同窓生や市民の方などにご覧いただきました。

ブチベツ／「滝がちやごちや落ちてゐる川」の意や「積丹」(シャク・コタン)、「夏の村」の意)等、その多くはアイヌ語に由来していますが、日本語に由来した地名や「日高」等日本書紀から命名された地名もあります。語源には諸説ありますが、附属図書館では、山田秀三著『北海道の地名』を基礎資料として、これら地名の由来、語源等を紹介しました。

総合博物館

中谷宇吉郎復元研究室の
ガイドツアー

9月26日(土)10時~16時40分
総合博物館 中谷宇吉郎復元研究室
参加者40名

総合博物館では、雪の科学者として知られる中谷宇吉郎元教授が
お使いになっていた居室を紹介す
る企画を実施し
ました。



参加された方々と記念撮影

総合博物館は、雪の科学者として知られる中谷宇吉郎元教授が
お使いになっていた居室を紹介す
る企画を実施しました。ツアー内
容は、中谷元教授の生い立ちの
解説から始め、次いで人工雪の
研究内容とその過程、さらにそ
の後に展開されていった様々な
研究分野を紹介し、最後に随筆
家または芸術家としての側面に
も触れることで、中谷元教授の
多彩な人生を感じていただける
よう努めました。

機器とともに説明パネルを配る
ことよって、中谷元教授をご存
知ない方でも楽しんでいただける
工夫を施しました。

この度の企画の案内役として
は、当館ボランティアであり関連
資料を多く寄贈してくださった山
崎敏晴氏をはじめ、当館で鉱物標
本等を研究してきた松枝大治名誉
教授と後任となる山本順司准教
授が務めました。ツアー内
容は、中谷元教授の生い立ちの
解説から始め、次いで人工雪の
研究内容とその過程、さらにそ
の後に展開されていった様々な
研究分野を紹介し、最後に随筆
家または芸術家としての側面に
も触れることで、中谷元教授の
多彩な人生を感じていただける
よう努めました。

学務部学務企画課
北海道地区国立大学連携教育機構

双方向遠隔授業体験会、
道内教養教育連携実施における
ICT機器を活用した最先端の
高等教育について

9月26日(土)13時~16時30分
高等教育推進機構
S2講義室、S12講義室 参加者10名

現在、本学をはじめ道内の国立
大学間で実施している教養教育連
携実施事業について紹介するた

ほっかいどう同窓会

ホームカミングデー！
ランチパーティー

9月26日(土)11時30分~13時30分
クラーク会館3階展示場 参加者164名

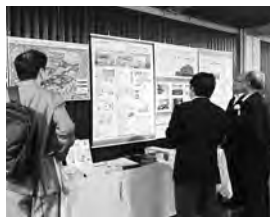
ほっかいどう同窓会では北海道
大学・同連合同窓会との3者共催
で、全学行事の歓迎式典・記念
講演会に引き続きランチパ
ーティーを行いました。



近藤会長の歓迎挨拶



パーティーの様子



展示パネルでの活動説明



司会の坂本 容副会長

近藤龍夫ほっかいど
う同窓会会長の歓迎接
拶に引き続き、山口
佳三北海道大学総長と
石山喬連合同窓会会長
の挨拶をいただきました。
北海道大学の役員、
全国から集まった同窓
生、歓迎式典のステー
ジに彩りを添えた学生
等により会場は大盛況
で、北海道産のチー
ズ・サーモン・ハムな
どをふんだんに使った
料理に舌鼓を打ちなが
ら親交を深めました。

北大キャンパスビジット
プロジェクト(学務部入試課担当)

キャンパスツアー

現役北大生とめぐるキャンパス音

9月26日(土)13時~15時
札幌キャンパス構内 参加者10名

全体行事の会場となったクラ
ーク会館を出発し、参加者の出身学
部に応じてコースを分けて札幌
キャンパス構内を順次巡り、高等
教育推進機構を最終到達地点とし
たツアーを実施し、10名の方に参
加していただきました。



学生と同窓生



学生によるガイド

ツアー終了後には、参加者から
は「建物、歴史等について初めて
知ることがあり、大変勉強になっ
た」「昔とは変わったところが多
くさんあった」等の感想が寄せら
れました。

北大キャンパスビジットプロ
ジェクトでは、年に数回、一般市
民向けのキャンパスツアーを行っ
ており、今秋にもキャンパスツ
アーを実施する予
定です。今回の様
子なども参考に
し、キャンパスツ
アーをより良いも
のにしていきたい
と思います。

最初に、本事業のPRビデオを
上映し、本事業の概要や双方向遠
隔授業システムの機器構成等につ
いて紹介した後、平成26年度後期
から実施された遠隔授業の中か
ら、大講義室において行われた授
業、小教室において行われたアク
ティブラーニング型授業の一例を

紹介しました。

また、本システムにより導入さ
れた電子黒板等の機器操作体験を
行い、遠隔教室との相互の書き込
みができることを体験していただ
きました。

続いて、模擬授業として、クリッ
カーと呼ばれる応答装置により来
場者に回答していただきました。
その後、本システムの今後の可
能性等について意見交換を行いま
した。

恵迪寮同窓会

文化講演と寮歌の集い

9月26日(土)14時30分~18時
クラーク会館大集會室 参加者100名

恵迪寮同窓会独自の行事とし
て、今年も「文化講演と寮歌の集
い」をクラーク会館大集會室で開
催し、OBや現寮生ら延べ100
名近い参加がありました。

このうち文化講演は、北大にお
ける有島武郎研究の第一人者であ
る神谷忠孝名誉教授(S33年入
寮)により「有島武郎と北大・恵
迪寮」と題して行われました。神
谷名誉教授は、恵迪寮舎監時代の
寮日誌や資料等から当時の寮生が
よく訓練され、談論風発の気概に
みまぎっていたことを紹介しまし
た。さらに社会主義、自由思想に
傾注していく有島が、農科大学を
愛しながらも、妻・安子の死去を
きっかけに退職し、作家として独
立するとともに、理想を貫く有島
が父の遺した牧場の解
放に向けて動き出す様
を手紙などの資料をも
とに解説しました。



有島の心情を解析する神谷名誉教授



肩を組み合わせ「都ぞ弥生」を高唱

第2部の「寮歌の集い」には、
傘寿を大幅に超えた大先輩から、
10代の現寮生まで、70歳以上の年
の差を超えて幅広い仲間が参加し
ました。恒例の「都ぞ弥生」斉唱
の後、新しい趣向として氏平増之
氏(S38年入寮)や千川浩治氏(S
40年)の指導でドイツ語版、ロシ
ア語版、アイヌ語版の「都ぞ弥生」
を熱唱しました。また、東京から
駆けつけた須賀正太郎氏(S28
年)が2年がかりで語訳した中国
語版を同期の仲間と合唱し、さら
に、現在同窓会で進行中の3種の
音源で作る「都ぞ弥生」CD制作
に協力してくれている北海道大学
交響楽団の弦楽四重奏のメンバー
が、バイオリンで「都ぞ弥生」の
ほか名寮歌を演奏しました。
各年代順で名寮歌を壘歌放声し
た後、「都ぞ弥生」を5番まで歌
い、最後に来年の再会を期して「別
離の歌」で締めくくりました。

法学部東京同窓会

日時：平成27年11月13日 / 会場：コートヤード・マリOTT銀座東武ホテル

法学部東京同窓会(講演会・総会・懇親会)がさる11月13日(金)夜にコートヤード・マリOTT銀座東武ホテルで開催されました。法学部東京同窓会は隔年で経済学部東京同窓会と合同開催していますが、本年度は法学部単独で開催いたしました。

■竹内氏講演会



講演会でスピーチされる竹内政明氏(S54・文)

当日はまず講演会から始まり、一昨年4月の北大入学式でもご講演いただきました、読売新聞東京本社・取締役論説委員の竹内政明氏(S54・文)に『コラムニストの泣き笑い』という演題でご講演していただきました。竹内氏は現在も読売新聞朝刊一

八谷 俊雄 (H2法)

面コラム「編集手帳」を連載中の現役コラムニストです。その経験から様々な切り口でのお話でしたが、話のどこどころに「北大愛」を感じさせる言葉が入り、参加者の心を引き付けていました。今回の講演は、「文章を書くのは自信があるが、人前で話をするのは自信がない。ただ、北大には人一倍愛着があるので、北大法学部同窓会のご依頼には二つ返事でお受けした」そうです。

また、話の中で「北大には一浪で入学した。1年目の不合格の電報は『ポプラ並木雪深し、再起を祈る』、2年目の合格の電報は『クランク微笑む』とあり、いずれも合格・不合格には一切触れない大学からの合否電報を受け取った。合格の電報に『おめでとう』の言葉はなかった。これが、『弱者に寄り添い温かい言葉をかけていきたい』という竹内氏のコラムニストとして大切にしてきた事にも触れられていました。講演の後の質疑応答も活発に行



恩師の先生たち
左から瀬川・厚谷・藤岡・北見(敬称略)の各先生

われ、あつという間に所定の1時間が過ぎました。

■総会 奥野新会長就任

講演会に続き、総会が開催され、4年間に亘って会長を務めてこられた牧野英克氏(S43)が退任され、代わって奥野滋氏(S50)が新たに会長に就任されました。就任の挨拶の中で奥野新会長からは「今、難しい時代の中で皆、



奥野新会長

参加をお待ちしております。

■終わりに

最後に恒例により「都ぞ弥生」の合唱で来年の再会を約束し、楽しかった一時の幕を締めました。なお、来年度は今年秋頃に前述の通り経済学部東京同窓会との合同開催予定です。法学部同窓生に加えて、経済学部同窓生の皆様の参加をお待ちしております。

■懇親会

その後、懇親会では、昭和39年卒の大先輩から平成20年卒の若手まで、約50名の同窓生に加えて、厚谷襄児先生(独占禁止法)・藤岡康宏先生(民法、早稲田大学名誉教授)・瀬川信久先生(民法、早稲田大学)・北見良嗣先生(金融法、帝京大学)の4名の恩師の先生にご出席いただきました。会場では同期の再会、異世代の交流、恩師の先生との懐かしい再会等、様々な形での懇談の花が咲き、近況報告や北大時代の懐かしい話で盛り上がっていました。



土から海へ。海から空へ。

1933年の創業以来、わたしたちTSUCHIYAは建物の企画設計から施工までをトータルで行う建設業を中心に、土壌汚染の改良技術などの環境事業にも積極的に取り組んできました。さらに日本企業の海外進出を支援するため、現地での建設サポートにも力を注いできました。そして今、TSUCHIYAが挑戦するのは航空事業です。より利便性の高い航空サービスの実現に向けて、邁進していきます。

「土」から「海」へ。「海」から「空」へ。

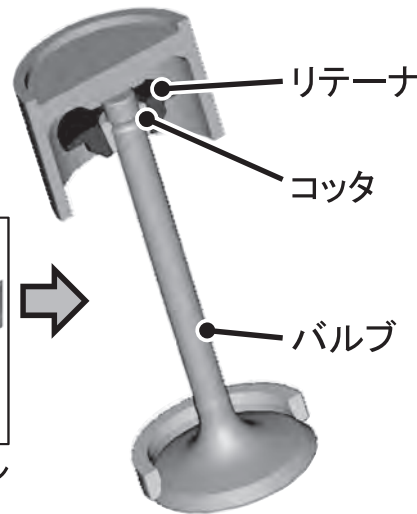
地球的な視野でお客さまと社会の発展に貢献するというわたしたちの志はこれからも大きく広がっていきます。

土や人が築く未来。
TSUCHIYA 株式会社



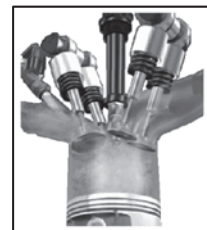
本社/本店 〒503-0917 岐阜県大垣市神田町2丁目55番地 TEL 0584-81-5111(代表) / 東京本社/支社 〒135-0016 東京都江東区東陽2丁目2番4号 / 支社:名古屋・関西 / 支店:北海道・東北・横浜・三重・北陸・神戸・中国・九州・沖縄 / 営業所:西東京・静岡・春日井・岐阜・滋賀 / 海外拠点:香港・USA・ハンガリー・オーストリア・シンガポール・マレーシア・ベトナム・韓国・インドネシア

エンジンバルブのトップメーカー



● 本社・静岡工場
〒439-0023
静岡県菊川市三沢1500-60
TEL 0537-35-5973

● 東京オフィス
〒220-0011
神奈川県横浜市西区高島1-1-2
TEL 045-681-1900



自動車エンジン

フジオーゼックス株式会社
東証第2部上場 URL <http://www.oozx.co.jp/>

第1部 講演会

自然の仕組みに学ぶ
資源環境工学

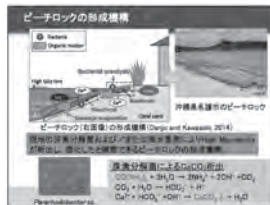
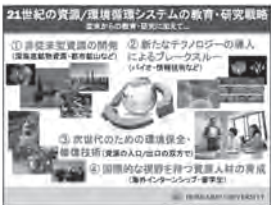


北海道大学大学院工学研究院
川崎 了 教授

人類が持続可能な経済発展を継続していくためには、「資源開発利用」と「環境保全」という二律背反の問題を解決する必要があります。

この問題の解決は容易ではありませんが、解決のヒントは意外と身近な自然の中にあり、気付いていないだけでも知れません。本講演では、海岸の砂や礫が石灰質の物質で自然に固化するビーチロックの仕組みを資源環境工学に応用した技術として、微生物を利用した新しい地盤固化に関する研究事例について紹介します。

〈資料:川崎了教授〉



資源開発の最前線



九州大学大学院工学研究院
島田 英樹 教授

これまで、資源開発に関する研究は、国内の石炭鉱山、石灰石鉱山等の開発に関わることが中心でした。しかし、国内資源産業の斜陽化に伴い、これまでの研究を基礎として海外への展開、すなわち海外の研究機関、大学、企業との共同研究をはじめ、深海底資源の開発やそれに伴う環境問題などにも研究対象を拡げつつあります。

そこで、今回は、我々の生活を支える固体資源の開発に関する最新のトピックスについて紹介します。

九大・北大による持続的資源系
人材育成プログラムとは



北海道大学大学院工学研究院
広吉 直樹 教授

文部科学省の特別経費新規事業に「持続的資源系人材育成プログラム」が採択されました。

本事業では、我が国の資源戦略に貢献できる人材を育成するために、九州大学、北海道大学の資源工学系教育研究部門が連携して新たな共同教育課程の平成29年度の創設を目指します。

講演では、本プログラムの背景・目的や、プログラムが目指す教育の姿について概要を紹介します。

〈資料:広吉直樹教授〉

第2部 パネルディスカッション

今世紀末には資源はどうなる



パネルディスカッションの様子

- コーディネーター
渡邊 公一郎
九州大学副理事
大学院工学研究院 教授
- パネリスト
島田 英樹 教授
川崎了 教授
広吉 直樹 教授

第17回 北大・九大合同
フロンティア・セミナー



北大東京同窓会エルムフォーラム講演会委員長 島山義彦 (S55水産)

北海道大学研究推進部研究振興企画課



挨拶する 山縣由美子氏
(九大理事)

本セミナーは、本学と九州大学が現在進めている研究について、広く産業界、社会人、同窓生の皆様に知っていただき、各分野の方々と連携・交流を深めるため

11月13日(金)、ステーションコソファレンス東京(東京都千代田区丸の内)において、「資源のフロンティア」をテーマに第17回北大・九大合同フロンティア・セミナーを開催いたしました。



による講演が行われました。パネルディスカッションでは、九州大学の渡邊公一郎副理事がコーディネーターとなり、ご講演者の広吉直樹教授、島田英樹教授、川崎了教授がパネリストとなつて、講演内容を中心に参加者から寄せられた質問への回答を交えながら進められ、盛会のうちに終了しました。

なお、平成28年1月23日(土)には都市センターホテル(東京都千代田区平河町)で第11回北海道大学・九州大学合同活動報告会を開催いたします。

平成20年度から合同で開催してまいりました。第17回目を迎えた今回のセミナーは、様々な分野の方や多くの同窓生からの申込があり、約130名の方々がご参加されました。

セミナーは、九州大学・山縣由美子理事及び本学・網塚浩総長補佐による挨拶で始まり、引き続き本学・広吉直樹教授(大学院工学研究院)、九州大学・島田英樹教授(大学院工学研究院)、本学・川崎了教授(大学院工学研究院)の3名による講演が行われました。



エルム談話室

活動報告

平成27年7月から12月までのエルム談話室の講演内容です。
エルム談話室は毎月1回第一金曜日午後2時からサピアタワー10階北大東京同窓会で行われます。同窓会のメールニュースでもお知らせしていますので、気軽にお越しください。(参加費500円) 清水慧(S43工・衛生)

【第787回】

演題：「南米チリのサケ・マスふ化場」
日時：平成27年7月3日14時～15時30分 12人出席
講演者：足立守
略歴：昭和48年工学部建築工学科卒、50年3月同修士課程修了、昭和50年4月建設省(現国土交通省)入省、国の官庁施設整備を担当、中央合同庁舎、札幌合同庁舎等、昭和60年JICAの建築専門家としてチリのコジャイケふ化場へ派遣される。平成15年8月参議院事務局、平成18年7月前田建設工業常任顧問、平成27年6月まで工学部同窓会の東京支部長
講演内容：
一、チリ国コジャイケふ化場へ派遣された時の経験のお話



五、昭和47年当時、根室ふ化場に勤務していた長澤有晃氏(S足立守氏)が淡水魚資源研究者とともにJICAの水産専門家として派遣され、

ここをサケ・マスふ化場の適地と決めたことに始まる。
六、当初は、北海道から卵を空輸し、ここでふ化し、放流、帰することを目指した。
七、長澤氏は、このプロジェクトのリーダーとして様々な試行錯誤を繰り返した結果、サケの放流・回帰から、フィヨルド海岸の特徴を利用した海面養殖に方針を変更した。
八、そのため、チリの国産種苗技術を確認して、ふ化した稚魚の提供や養殖に適した飼料、魚病対策などの技術開発を行い、民間事業者が海面養殖を行う基礎づくりを行った。
九、足立氏は、このプロジェクトの最盛期に現地に赴き、ふ化場の水路式ふ化池とその上屋の建設工事に関わり、長澤有晃氏とも親交を結んだ。
十、長澤氏はその後、アルゼンチンの水産養殖プロジェクトにも関わり、平成23年に札幌で亡くなった。享年80歳であった。
十一、民間事業者として当初から参加していたニチロに加えて、日本がチリ財団の大規模事業を国際入札で取得するなど、日本企業の参加もあり、チリの一大産業となった。

【第788回】

演題：「我々は、どうして今ここに生きているのか？」
日時：平成27年8月10日14時～16時 17人出席
講演者：福地光男
略歴：昭和41年4月北海道大学水産類入学、昭和45年卒、修士、博士課程へ進学、昭和50年単位取得、退学、昭和50年国立極地研究所助手研究系、昭和56年4月同助教授。昭和63年～平成元年早稲田大学教育学部理学専攻非常勤講師、平成3年7月国立極地研究所教授研究系、平成5年4月総合研究大学院大学教授、平成7年4月国立極地研究所南極圏環境モニタリング研究センター長、平成17年4月情報・システム研究機構国立極地研究所副所長、平成24年4月～25年9月東京海



十二、平成20年時点では、世界のサケ生産の7割が養殖で、その8割がノルウェー産とチリ産が占めており、比率はほぼ半々である。
十三、日本の輸入サケの6割がチリ産。チリの輸出货量は、44・5万トンで、16・3万トンが日本向けであり、国別のトップである。

洋大学特任教授、平成24年4月～26年3月情報・システム研究機構国立極地研究所特任教授(一部省略)
講演内容：
一、卒論：北部北太平洋からベーリング海における端脚類とオキアミ類分布調査、修論：各種動物プランクトン飼育実験による排泄率と体サイズの関係(以上原題は英文)博士論文：沿岸滞留期におけるスケトウダラ卵稚仔の栄養生態学的研究
二、本日の話題 ①我々は、どうして今ここに生きているのか? ②生まれ育ちは宇都宮(自己紹介)、③プランクトンを知ってますか? ④南極昭和基地のイントロを少し⑤そして、プランクトンは地球を救うか?
三、南極歴 昭和50年11月～51年3月アルゼンチン南極観測隊参加、第18次隊員(夏隊)、第20次隊員(夏隊)、第23次隊員(越冬隊)第27次隊員(夏隊)、第33次隊員(越冬隊長、平成7年1月東京海洋大学白鳳丸南極研究航海(KH-94-1)研究
四、北極歴 昭和63年～平成元年、米国・アラスカ大学海洋研究所と共同研究、ベーリング海・チュクチ海航海、平成4年～10年、カナダ・ラバル大学との共同研究、平成21年スバルバル諸島二才

ルスン北極点陸上調査
五、どうして今ここに生きているのか? 宇宙が出来て140億年の時間の流れの中で化学的力、物理的力、その結果、生命が地球の海に誕生する。原始生物の誕生から、生物の力により地球大気中に酸素が出来た。その後、長い生物進化を経て、そして、今皆が生きていることの貴重さ。
六、プランクトンとは? 昭和62年にドイツのVictor Hensen が名づけた。平成2年にドイツの Ernst Haeckel がネクトン(遊泳生物)とベントス(底生生物)を定義
七、1次生産者が植物プランクトン、動物プランクトンが1次消費者、2次消費者が魚類など
八、南極海の食物網、魚類1億トン、イカ類4千万トン、クジラ類500万トン、ペンギン類80万トン、アザラシ類1千万トン、オキアミを含む動物プランクトン10億トン以上か?
九、辞典の改定については一例として、2つの他動詞 enjoy と experience が取り上げられ、英語では、意識を持たない無生物や抽象概念すら楽しんだり(enjoy) 経験する(experience)ことが可能なることを示すため、次の用例表示を試みた。【囲み参照】

【第789回】

演題：「日本人の言語学―英文法の日本語への流入など」
日時：平成27年9月4日14時～16時 15人出席
講演者：田中一範



田中一範氏

【主語が人間】
In no case did we enjoy the success of the Herz reaction which we achieved with the pyrazoles.
【主語が無生物】
The alkoxide structure seems to enjoy a special stability on Fe.
【主語が抽象概念】
Discovery and industrial application in catalytic sciences are enjoying a new era of advance in both business and academia.

【主語が人間】
In no case did we enjoy the success of the Herz reaction which we achieved with the pyrazoles.
【主語が無生物】
The alkoxide structure seems to enjoy a special stability on Fe.
【主語が抽象概念】
Discovery and industrial application in catalytic sciences are enjoying a new era of advance in both business and academia.
三、質疑応答
Q：enjoyを取り上げているが、どういうところから拾い上げているか?
A：米国化学会の会員誌 Chemical & Engineering News からの引用が多い。
Q：(辞典編纂の)後継者を育てる必要があるのでは?
A：どなたかがこの辞典を拾い上げて改定して下されば有難い。
Q：資料に「英会話は民間で、小中学校では文法?」とあるのを受けて、英語は話せなければ意味がないのでは?
A：そうだとすると会話だけでなく、オリンピックを前にして林立する民間の教育機関で学べるのでは。
Q：(公教育)でも会話を教えるべきでは?
A：必ずしもそうは思わない。戦前の日本の発展は、喋れないけれども文献を読めた専門家の存在が大きいのでは。
Q：技術の進歩への対応は?
A：タンパク質の例をとるなら、古くからの言葉 Protein に加えて、それに関連する最新の学術用語 proteome や proteomics なども見出し語として積極的に取り込みたい。



古跡純一氏

【第790回】
演題「海外地図の作成にかかわって40年」
日時・平成27年10月2日14時～16時

講演者・古跡純一
略歴・昭和47年理学部地球物理学科卒、昭和47年国際航業仙台支店測量部入社

講演内容…
一、本日の話す内容のスコープ
①背景、②地図の作成方法、③今まで経験した業務、④その他いろいろ
二、昭和43年～47年頃の状況 大学紛争（学部移行は3年になってから、地球物理学、海洋底拡大説、大陸拡大説。えりも町（当時は幌泉町）に北大地殻変動観測所が昭和46年に完成した。奥行30mの三角形形状のトンネルが掘られ、そこで石英ガラスを利用した伸縮計と水管を利用した傾斜計が設置され、地殻変動の連続観測が開始された。

六、絵も文章にしてから読む。グラフや表や写真も朗読者が手書きで原稿を作成し、読み上げる。
七、週1回2時間の講習を学生気分ですすめ、4か月で無事終了し、資格を取りどんな依頼が舞い込むか。小説かな、文学かな。
八、ところが、依頼されたのは、国家試験の問題集の録音。
九、昔は視覚障害者の生活手段は、「あは・き」の「三療」と言われ、「あ」は按摩、「は」は鍼、「き」は灸であり、国家試験があった。十、その問題集の朗読の依頼が仕事だった。按摩や鍼は東洋医学で難解な文字も多く、朗読に苦労した。

十一、誤読は、著作権法にも触れる。地名なども「町」は「まち」なのか、「ちょう」なのか、「山」も「さん」と読むか「やま」と読むか。「富士山」は「ふじさん」で「ふじやま」ではない。音訳は、悠長な朗読ではない。
十二、テープ録音を自宅でやってみて雑音の多さに驚いた。夜やればとおっしゃる方もいるが、聞き手は夜録音した物はわかるとおっしゃる。
十三、下調べから録音、校正までB6版の2～300ページの本を1冊仕上げるのに3か月くらいかかる。
十四、テープは障害者持ちで、読

むことはボランティアである。報酬を受けるならやらない。
十五、音読の世界にもデジタル化の波が。テープもデッキも製造中止。合成音声できれいな発音が出る。
十六、視力を失った方が機器の発達で目の見える人と同時に文字情報を得られるようになる日がすぐそこに来ている。



上野将司氏

【第792回】
演題「空の旅の自然学 定期便から見た風景」
日時・平成27年12月4日14時～16時 12人出席
講演者・上野将司
略歴・昭和44年理学部地質鉱物学卒、昭和44年4月応用地質株式会社入社大阪、福岡、岡山、高松に勤務し、主に斜面防災業務に従事、現在本社エンジニアリング本部技師長
講演内容…
一、飛行機から撮影した日本全国

三、地図の作成方法 写真測量 (photogrammetry) を利用空中写真を使う①標点測量②空中写真撮影、③標定(空中三角測量)、④図化、編集(線画)、⑤地図記号化、⑥地形図
四、従事した仕事 昭和48年～55年トランスジニア鉄道測量、昭和51年～52年ボリビア国5万分の1地図作成、昭和55年マラッカ海峡海図作成等、昭和56年～57年オランダ・ITC留学、平成6年ケニア国測量地図学院(地籍調査)、平成17年コロンビア国GISデータベース基盤整備、平成18年～19年フィリピン国地図作成支援、平成20～26年インドネシア国NSDI開発、平成27年ジンバブエ国地理空間情報データベース構築 (従事した仕事は一部省略)
五、地球上の位置 ①地球の大きさが各国で違う、②緯度、経度の基準が各国で違う、③高さの基準が各国で違う、④地図に取り込む地物・記号も違う
六、航空機で撮影、図化機で図化
七、ボリビア国チャパレー地区で人工衛星(NSS)を初めて地図図に利用。
八、トランスジニアプロジェクトの団長からギニアでもNSSを使った地形図作成と一緒にやろうと声をかけられ具体化し、全土の写真図作成と4面地図作成業務が始まった。
九、マリ国では衛星画像を使用して地図作成を行う。
十、地図作成事業の変遷 ①地形図印刷、②デジタルマッピング、③地形情報(GIS)構築、④地理空間データ整備、⑤国土空間データ整備
十一、仕事の流れとコンサルタン業務 仕事は仕様書の作成↓入札↓作業の実施の順に進むが、コンサルタン業務は、仕様書に従った詳細設計、入札支援、作業実施に関する作業監視となる。
十二、インドネシアでNSDI (National Geo-spatial Database Infrastructure) プロジェクトが67億円規模で日本のローンで行われた。
一三、インドネシアにもエルム会があり、日本と同じように宴会で盛り上がりつつある。

【第791回】
演題「もし、今、突然視力を失ったら……」
日時・平成27年11月6日14時～16時 16人出席
講演者・川上典子
略歴・昭和31年文学部国文学科卒、昭和55年4月相模原市録音奉仕会入会、昭和63年4月相模原市録音奉仕会会長などを歴任、平成19年6月～平成25年3月全国音訳介があった。琵琶湖近くの花折断層や神戸市の住宅密集地そばの諏訪山断層、中国道と山崎断層等も映し出され、我が国の身近な断層の多さも示された。
十、湖沼編では、田沢湖、十和田湖、仁科三湖(青木湖、中綱湖、木崎湖)の他、相模湖、芦ノ湖、山中湖、浜名湖、琵琶湖等、御馴染みの湖が回りの山容と共に打ちしだされている。
十一、海岸編では、まず、江の島と房総半島の富津洲が紹介され、庄内砂丘、美保の松原(砂州)、久美浜湾、天橋立等の波の作用の妙が実感できる映像が映し出された。
十二、河川編では、千葉県大滝町付近の河川の蛇行の姿、釜無川が流れる甲府盆地、台風直後の濁流が流れる多摩川や荒川の様子も。
十三、松本盆地の映像では、河川の扇状地の様子がよく解る。
十四、人工構造物編では家康が幕府を開いたころの地形が全く分かんなく密集した東京、埋め立てにより直線的な人工的海岸線となった大阪湾、何かと話題の多い諫早湾、ベイブリッジやゲートブリッジ明石海峡大橋。
十五、人工構造物編は、羽田をはじめとする各地空港の他、播磨科学公園都市の光子加速器実験施設の白いリングが印象的。

【第790回】
演題「海外地図の作成にかかわって40年」
日時・平成27年10月2日14時～16時
講演者・古跡純一
略歴・昭和47年理学部地球物理学科卒、昭和47年国際航業仙台支店測量部入社
講演内容…
一、本日の話す内容のスコープ
①背景、②地図の作成方法、③今まで経験した業務、④その他いろいろ
二、昭和43年～47年頃の状況 大学紛争（学部移行は3年になってから、地球物理学、海洋底拡大説、大陸拡大説。えりも町（当時は幌泉町）に北大地殻変動観測所が昭和46年に完成した。奥行30mの三角形形状のトンネルが掘られ、そこで石英ガラスを利用した伸縮計と水管を利用した傾斜計が設置され、地殻変動の連続観測が開始された。

【第791回】
演題「もし、今、突然視力を失ったら……」
日時・平成27年11月6日14時～16時 16人出席
講演者・川上典子
略歴・昭和31年文学部国文学科卒、昭和55年4月相模原市録音奉仕会入会、昭和63年4月相模原市録音奉仕会会長などを歴任、平成19年6月～平成25年3月全国音訳



川上典子氏

ボランテニアネットワーク書記、平成25年4月から全国音訳ボランテニアネットワーク運営委員
講演内容…
一、昭和27年浦和第一女子高から北大に入学した。女子学生は、50名ほどで、卒論は、源氏物語。
二、失明して困ることは、大きく二つある。歩行が不自由になることと読み・書きが不自由になること。
三、万一、視力をなくしても読書をあきらめることは、ありません。音訳ボランテニアが、読書のお手伝いをしています。
四、音訳ボランテニアになったきっかけは、目が不自由になった義母が、小説が大好きで、義母への録音テープ作りであった。当時は、オープンリールで、扱いを間違えると、テープがこんがらがり、大変だった。
五、昭和53年に相模原市録音奉仕会が設立された朗読のスタートは、発音、発声練習から。



タイ・ミャンマーで 会計事務所を設立



社員とローカルパートナー、本人(右端)

Global Think Consulting 会計事務所 瀬戸山洋介
農学部 2000 年卒 日本国公認会計士

TOEIC 490点からスタート

以前から英語を使うことに憧れがあり、TOEICは490点からのスタートであるが、大学時代もNBC英会話教室に通った。仕事を始めてからも英語の勉強は定期的に続けていた。もちろん、海外留学経験者と比較すると自己流の英語のためだに劣る。でも英語の仕事をやらせてくださいとPWC(世界4大会計事務所の一つ)には言い続けていた。幸い、英語の仕事が多かったためか、周りがやりたがらなかつたからか、何件か海外とやり取りする仕事を任せてもらえた。最初は英語のメールのやり取りからであった。会計用語については、読み書きであれば理解し、伝えることができるようになってきたと思う。その後も、独学でできるフィリピン人のネット英会話を続けることで英語への経験を積んだ。独立してからは苦労が絶えない。取れる仕事は安いか、リスク

の高い仕事ばかり。いろいろな人と会える機会にはなんでも出るようにした。ロータリークラブ、経営者の勉強会、東南アジアの勉強会、IT経営者の勉強会(お金はみるみる尽きていく。支えてくれた妻には本当に感謝している)。その中で、情報産業エールムの勉強会で、ミャンマーの進出コンサルをしている会社と出会うことになる。ミャンマー人は、ミャンマー語と日本語の語順が同じで、すらすらしやべれるようになるという。ともかく現地に行くことになった。

もともと英語の仕事は興味があったが、独立して使えるとは思っていなかったが、海外関連は自分の今までのキャリアともつながっていると思った。ミャンマーの新卒採用セミナーに参加させてもらい、ミャンマー人の素直さ、ひたむきさに、心を打たれた。聞けば当時2014年では、給料は月1万円か2万円程度。そのため、日本で20人しかいないような会社が進出して、当初5人の採用を行うつもりが、20人現地採用をしてしまい、毎年20人ずつ採用して、現在、日本が20人、ミャンマーが60人なんて会社もざらである。

●東南アジアとの連携を模索
私の海外旅行は、僻地を回るこ

とが多く、ロシアをシベリア鉄道で、ウラジオストクからモスクワを横断。インドをデリーからパラーナシまで横断などをしていて、ロシアもインドも日本人をだまして金を巻き上げることになんかの罪悪感も持っていないのかと思った。その中で、ミャンマー人は、タクシー運転手とも変な交渉のやり取りが発生しない。あまりひどい金額でふっかけてくることはない。お金を多く支払っても、「間違っって支払いましたよ」と

戻ってくる。月1万円の給料の人が、5000円を寄付している。落し物はなくならない。日本人に対して、尊敬の念を持ってもらっている。時間じくして、「永遠の0」がはやっていた。日本人が欧米の植民地だった東南アジアを開放するために血を流した時代があり、欧米の白人を黄色の肌の民族が追い払うのを見て、勇気を与えられた歴史がある。東南アジアの方々の親日には、過去の日本人の血がある。そんなこともあるし、中国、韓国が不安定な状況が続いている。中国は大きすぎるし、日本への攻撃をやめることはないだろう。日本の成長のためには、地政学的に考えても東南アジアと連携して、中国に攻撃される国同士で連携することが、発展しやすいのではないかと思うようになる。

では海外の業務は紹介しかできない。そんなのでは駄目だと思っていたし、「現地で泥臭い仕事をしたくない」と、アス力監査法人の田中大丸先生からもご指導をいただいた。そうはいつても、海外に出るにはお金もかかる。会計士協会の中小企業の海外進出支援勉強会、アジアビジネス勉強会など、いろいろなところに顔を出すもの、なかなか自分がどこへ向かっているのか、なんでも勉強するが、空回りしている日々が続いていた。

●空回りの日々からの脱却
しかしながら、日本にいな

そんな時、富山の税理士事務所から、ミャンマー進出をしたいという会社の話が来て、東京で独立している会計士と連携ができるようにと、顔を繋いでいただいた。とりあえず、今後もよろしくといった話となった。私には当時もお金はなかったが、労働の現物出資でお願いしたいと、株の20%を出資。100万円を入れることを約束する。



池に向かって打つゴルフ練習場。手でボールの補給をしてくれます



現地の鹿児島県人会の方々

その後、富山の会社は、タイへも進出を予定しており、タイの中間監査法人と合弁会社を設立予定とのことであった。監査法人から日本人の会計士を常駐するのであれば、合弁会社をやるとの条件が



内臓串屋さん。ミャンマー人から「危ないよ」と言われたとか

出たことで、突然来月から駐在との話になり、すべてを振り切った。タイ、ミャンマーへ行くことになった。

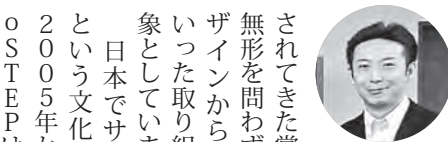
今は、その税理士とは別れて、以前会社勤めをしていたときに自分の担当の監査先だったdavi nciのCFO、タイと一緒に仕事をしながら、ミャンマーで自分がメイン出資の会社を立ち上げた。相変わらず、「会計士らしくないが親しみやすいのでお願いしようか」という流れで仕事になっていく。

CoSTEPの「サイエンス・カフェ札幌」が グッドデザイン賞を受賞

2015年9月29日、日本デザイン振興会が主催するグッドデザイン賞の「地域・コミュニティづくり/社会貢献活動」の部門において、CoSTEPの応募作品「触媒としてのサイエンス・カフェ札幌」北海道大学 高等教育推進機構 科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP) の10年間の取り組み」が受賞しました。



サイエンス・カフェ札幌にて市民が対話する様子



村井 貴

北海道大学高等教育推進機構
科学技術コミュニケーション教育研究部門
(CoSTEP)



研究者と市民が対話する様子
研究者が行った結果、単なるサイエンス・カフェに留まらず、周囲に好影響をもたらした。新たなプロジェクトや出会いを生み出していったためです。具体的にはサイエンス・カフェ札幌を通じて知り合った仲間が集って新たなコンセプトのサイエンスカフェを企画したケースや、参加者として来場した学生がゲストの研究者の話を聞いて、その後その研究室に入って活躍したケースなどが挙げられます。

また、教育的な側面では受講生が主体となって運営されている点がとても重要です。北海道大学の大学院生を中心に構成されている受講生が研究者と市民をつなぐ役割を

「サイエンス・カフェ札幌」の特色
応募作品名に「触媒としての」と添えてあるのは、サイエンス・カフェ札幌の想いが溢れている。特に教育面での成果に対し、評価を受けている点が印象的でした。また、CoSTEPの特色のひとつであるデザイン性の高さにも言及されており、細かく審査の目が行き届いていたのだということと強く感じました。

また、CoSTEPの「リサーチ&ライティング実習」にて、受賞展を科学技術コミュニケーションの視点で取材する機会を設けることで、受賞展そのものをCoSTEP受講生の教育活動の場として活用することもできました。具体的には、「グッドデザイン賞と科学技術コミュニケーション」というテーマのもと、科学技術とデザインを融合させた受賞作品が製品化された背景やコンセプトを調査し、デザイン分野における科学技術コミュニケーションの意義や、将来的にもたらされる社会的な影響および新たに生まれるコミュニケーションの可能性を考察してもらいました。

審査委員の評価

グッドデザイン賞の審査は部門ごとの審査委員が行うことになっています。CoSTEPが受賞した「地域・コミュニティづくり/社会貢献活動」の審査委員による評価コメントをご紹介します。

「各地でサイエンスカフェは行われているが、学生が主体となることで実践的な学びの場となっていること、地域に根ざしたテーマを積極的に取りあげること、大学と地域を結ぶ試みになっていること、さらにはウェブサイトを通じた情報コミュニケーション、受講生による自発的なサイエンスカフェの実施など、質を向上させながら10年以上継続している点が高評価となった。各回のフライヤーやポスターのデザインにも、タイトル付けからグラフィックに至るまで参加者目線の工夫が随所に見られ、ありきたりなサイエンスカ



審査委員の南雲勝志先生と記念撮影



会場の展示パネルと
東京同窓会の川添さん



山口総長と新田理事と
CoSTEPスタッフで受賞記念撮影



ゲストの話題提供の様子

当日の会場は大入りで、来場者は熱心に耳を傾け、時折用意されるインタラクティブなセッションを通じてながら、食肉に対する興味関心を深めていました。その様子は受賞報告の際に山口総長の言葉にあった「新たな対話の場づくり」そのものであり、サイエンス・カフェ札幌の歴史にまた新たなページをもたらしました。

受賞展を教育活動の場に

グッドデザイン賞では受賞作品を一堂に会した受賞展「GOOD DESIGN EXHIBITION」を東京ミッドタウンで開催しています。昨年は10月30日〜11月4日の日程で行われました。会期中は多数の修了生や関係者にご来場いただき、CoSTEPの展示スペースは終始賑やかで、これまでサイエンス・カフェ札幌が紡いできた人と人の強いつながりを再確認する場となりました。

新たな対話の場づくりへ

山口総長への受賞報告から2日後の12月6日に、第85回サイエンス・カフェ札幌「ラベルのない肉」細胞から見る食肉」(ゲスト 西邑隆徳さん/農学研究院教授)が開催され、細胞や組織の発達メカニズムの話題を中心に、ゲストと市民が一緒に食肉について考えました。運営の主体はCoSTEPの「対話の場の創造実習」の受講生です。企画の段階から、西邑先生と何度も打ち合わせを行い、テーマ設定、進行、演出などの内容を練り、この日を迎えました。

総長への受賞報告

12月4日、山口佳三総長に受賞報告を行いました。新田孝彦理事(副学長/高等教育推進機構長)より10年間の活動実績について報

受賞の意義

サイエンス・カフェ札幌が積み上げてきた成果に対し、総合的にデザインを評価・推奨する日本で唯一の制度であるグッドデザイン賞から外部評価を得られたことが最も重要であると考えています。今後もこの路線を継続し、創意工夫を加えながら、サイエンス・カフェ札幌は進化していくことになります。

北海道大学の組織として初の受賞である点も重要です。CoSTEPは科学技術コミュニケーションの教育研究活動を進めていますが、同時に教育を通じてアウトリーチ活動を担っている組織です。グッドデザイン賞の受賞によって、北海道大学の社会貢献活動に対する姿勢を全国に示すことができたのは意義があったと考えます。



火山災害軽減に向けて 有珠山での取り組み

この1年余り御嶽山・口永良部島・箱根山・阿蘇山などの噴火が相次いだ。有珠山噴火での噴火予知成功事例を引用して、火山のホームドクターの必要性が指摘されている。しかし、長年特定の火山にこそって研究に専念しているだけでは期待される役割は果たせない。活火山の有珠山の2000年噴火とその後、北大の火山研究者達が地元の行政や住民とどう関わってきたのかを紹介しよう。

◎史上初の噴火予知情報

岡田弘さん（名誉教授、当時理学部教授・有珠火山観測所所長）が2000年の有珠山噴火を予知して住民を避難させ、死傷者を出さなかったといわれているのは適切でない。我々研究者は住民を避

れた。これを受けて気象庁は史上初の噴火予知情報を発表した。有珠山を囲む3つの自治体の首長は火山防災マップで指摘されている火砕流到達のリスクがある範囲に居住する住民の避難を指示した。

実際に噴火が始まったのは31日の昼過ぎ、火口は虻田市街地に近い西山麓であった。この時点で市街地の西半分は事前避難の対象とはなっていない。現地対策本部では勝井名誉教授と岡田さんとして私も加わって急ぎ避難範囲の拡大が検討され、4000名規模の追加避難が指示された。自衛隊・JR・道南バスの支援を得て全員避難を達成した。壮瞥町で前回の噴火以降長年続けられていたことも郷土史講座に火山学習が組み込まれて岡田さんが講師を務めていたことや、1995年に有珠火山防災マップが刊行されて以来噴火活動が繰り返されてきたことで、火山研究者と地元住民との間の信頼関係ができていたことが迅速な避難の達成に繋がった。

◎防災啓発戦略を開始

噴火はすぐには終息せずその推移の見極めは難しい。しかし大勢の住民を避難させたまましていると、観光業のみならず農業や漁業者に多大な損害が発生する。噴火の推移についての私たちの意見を



2000年噴火が始まったとき噴石の飛来により破損した幼稚園の建物



中学校の野外授業を行う筆者

よりどころとして、一時帰宅や避難範囲の段階的な縮小を行い損害の軽減を計ることとなった。具体的な線引き作業には、火山噴出物を放出するエネルギーが次第に衰えるにつれ、噴出物の到達範囲が縮小してゆく過程を簡易な物理モデルで算出し地図上に落としこむのを使った。

災害復旧を見据えた行政機関からは連日多様な相談ごとが持ち込まれた。記者会見や住民説明会の際には火山活動の現況と将来の見通しをありのままに伝える努力をした。8月末には噴火終息と判断された。

◎ジオパークとマイスター制度を創設

噴火により被災した公共住宅や幼稚園の建物などを災害遺構として保存して防災啓発活動のツールとし、観光振興の一助にもなるはずだと提言し、後に洞爺湖有珠山

理学研究科名誉教授 宇井忠英



1940年11月東京生まれ。1969年3月東京大学大学院理学系研究科博士課程修了（理学博士）。東京大学助手、米田オレゴン大学研究員、山形大学講師、神戸大学助教授、同教授を経て1994年4月北海道大学大学院理学研究科教授、2004年4月北海道大学名誉教授・NPO法人環境防災総合政策研究機構理事。専門分野は火山地質学・火山防災。

難させる権限は持ち合わせていない。あくまでも行政機関へのアドバイザーに過ぎない。3月27日から始まった前兆地震は次第にエスカレートしていった。29日に北海道防災会議の火山専門部会が現地で開催され、それを踏まえた記者会見で、「一両日中に噴火の可能性」を指摘した岡田さんの発言がテレビニュースに流

るようになり、国や道の様々な復興算枠を活用しつつ次期噴火を見据えた防災啓発戦略がはじまった。2002年には火山防災マップの改定版を刊行して配布し住民に説明会を行った。2003年に降になって防災教育や啓発活動を展開する素材としての火山防災副読本や防災ビデオを作ることができた。海岸部から洞爺湖温泉に向かう国道はマグマの上昇に伴う地盤変動で被災し、ルート変更を余儀なくされた。トンネルによる新ルートは洞爺湖温泉側の出口は次期噴火に際して危険な火砕流がまっすぐトンネル内に侵入しないよう有珠山の山頂方向とは直角方向にしようとした。また、徒歩でもトンネル内に避難できるように、出口のすぐそばにはトンネルの口径を大きくして路側帯を設置するように提言した。町道や小学校・病院の移転と公共住宅の新設に際しても噴火に対する安全性を考慮した意見を述べそれが反映された。

江戸時代以降9回発生した有珠山の噴火履歴から判断すると次期噴火は刻々近づいている可能性がある。次回もうまく噴火の危機を乗り越えられるか否かは火山研究者が防災啓発活動にも参画し、地元住民が防災意識を高めたまま維持できるかにかかっている。

「テレビの世界」に30年



田中意澄 (H1・文)

「目指せ北大〇十人！」といったようなスローガンを掲げた北海道の田舎の進学校から、周囲に流されるまま何となく北大に進学したノンポリ学生が、バブル華やかなりし頃進んだ道が「テレビの世界」。学生時代はアルバイトと麻雀・パチンコに明け暮れ、古い資料のカビの臭いが充満した西洋史学ゼミ室に立ち寄るのは週に一度…。振り返るのも恥ずかしい、自堕落な学生生活しか思い出せないが、その頃の偉才・奇才との出会いや死ぬほどあった時間の中で膨らませた妄想や見聞が後々役に立ったと言えなくはないかと…。

◆◆

テレビ報道や番組制作の世界では、例えば「原発」や「ドラマ制作」のように専門分野を持つて仕事を進めていくことが少なくないが、私の場合は極めて雑食系。事件記者からドキュメンタリーのディレクター、さらにはバラエティ番組のプロデューサーと我ながら実に大きくウイングを広げて（広く浅く何でも…とも言うが）仕事をしてきた。深い専門分野をうらやましいと思うこともあるが、この

「なんでも屋」ぶりもテレビならではの魅力ではある。こうなったのも業界でもちよっと珍しい経歴に關係しているかもしれない。

◆忘れられない「身柄拘束」

卒業後就職したのは地元札幌のH1B。ここでは主に報道記者として事件や地方自治を担当していたが、当時（90年代前半）は隣国ロシアでソビエトが崩壊。ペレストロイカで戦中・戦後の情報が次々と明らかになってきていたほか、北海道との経済交流や北方四島とのビザなし交流が急激に進



北朝鮮・板門店にて記者リポート(H3年)

み、ロシアが取材対象になることが急激に増えていた。何度も極東を中心にロシアに渡り、ニュース取材やドキュメンタリー制作の機会に恵まれたが、忘れられないのはシベリアでの「身柄拘束」である。

◆◆

当時担当していた番組のテーマは、ロシア革命直後シベリアに2年半だけ存在した緩衝国家「極東共和国」。スターリンから首班に指名された人物には単なる緩衝国家ではなく、理想の国家を作るという野望があったのではないかと



結氷したアムール川(H10年) この直後FSBIに拘束された

もちろん取材にあたってはロシア政府の許可も得ていたので、すぐに解放されると思っていただけが、これが甘かった。書類を見せても「政府が許可をするわけがない」と全く取り合わず、日本とも連絡を取らせてくれない。どうやらアムール川を挟んで国境を接する中国を撮影していたことが、軍事機密に抵触するらしい。すべてのテープを破棄しなければ解放しないと譲らず、拘束が長引くと国際問題になりかねないと言っても聞

いたとのこと。中央と地方のちぐはぐな対応。ソビエト崩壊後の混乱が招いた出来事だった。

◆新番組の開発

民放に11年勤めた後、縁あってNHKに転職。当初は同じようなニュース系の情報番組やドキュメンタリーをディレクターとして制作していたが、その後プロデューサーという仕事に就いて以来、多くの新番組開発に携わるようになった。ご存知のようにここ数年テレビ離れが進む中、NHKの課題は若年層の視聴率確保。子供向けのニュースショーや模型を使っ

た時事討論番組、お笑い芸人を司会に起用したサプライズ感動番組に女子高生対象のEテレの情報バラエティなどそれぞれこそ千差万別、あらゆる分野の番組を開発してきた。

現在担当しているのが昨年4月にスタートした「所さん！大変ですよ」。新聞の片隅に載っているような小さな事件を深く追っていくと、今の社会の姿が浮き彫りになってくる、という狙いのいわゆる「社会派バラエティ」だ。

◆◆

例えば、「あるメーカーのチヨークが最近バカ売れしている」という情報をもとに取

材を進めると、なぜか大手予備校が買い占めていることが判明。その理由は、高品質のチヨークを作るメーカーが廃業を決めたからだという。なんでこんなに売れるのに廃業するのか、メーカーに行ってみると「いくら予備校が買ってくれてもチヨークは儲からないので後継者がいない」と。少子化で小中学校の買うチヨークが激減しているという。廃業に頭を抱えていたのは数学のノーベル賞と言われるフィールズ賞受賞者をはじめとするスタンフォード大などの「天才数学者」たち。公式の証明を黒板に展開する中で、あの高品質のチヨークが生み出す書き味とリズムはかけがいのないものだという。というわけでスタンフォードでも10万本単位で買い占めに走っていた。そんな世界に誇る技術。取材を進めると、この高品質チヨークに韓国メーカーが目をつけ、アジア市場をにらんで工場と技術をそのまま買い取る計画を進めていた。

◆◆

ディレクターが次々に浮かぶ疑問に沿って取材を進めると、進む少子高齢化による市場の縮小、やむを得ず流出していく日本の技術、世界市場に簡単に打って出られない中小メーカーの壁、抜け目なく世界戦略を展開するアジアの

メーカー、チヨーク一つの選択に悩む世界的数学者の苦悩など、取材を始める前は思いもしなかった驚きの事実が次々に浮かび上がってくるという仕掛けだ。

◆◆

様々な番組を開発する中で、ずっとこだわりたいと思っていたのが「調査報道」。バラエティという形を身にまといながら、チヨークと社会の有り様を見つめていきたいと、何度も議論を重ね、現在の形にできた。番組全体の狙いや構造だけでなく、一本一本の番組において、一つの出来事からどんな世界が展開できるのか、ディレクターと議論を重ね、道筋を示し、最終的に映像やナレーションを選択していくというのが今の仕事だ。卒業から間もなく30年。技術や知識、考え方などは進歩した（恐らく？）のだろうが、何だか学生時代をずーっと引きずっているような気分の仕事でもある。

もしご興味のある方、是非一度番組をご覧ください。



現在担当番組の打合せ中「所さん！大変ですよ」総合テレビ 毎週(木)22:55~23:20



H12年 NHK入局 クローズアップ現代、NHKスペシャルを制作 昨年、新人研修の講師も(前列中央)

様々な「人生の転機」に立ち会って



田部知江子(H7・法)

平成元年に文Ⅲ系に入学し、平成7年に法学部を卒業しましたが、その後も平成10年に司法試験に受かるまで、北大キャンパスには大変お世話になりました。



七大会で400mに出場
(平成元年、名古屋市瑞穂公園
陸上競技場)

◆陸上競技部での毎日

札幌南高校時代から始めた陸上競技でしたが、4×100mリレーで、インターハイ出場まで引つ張ってくれた先輩が、「一緒に北大で4×400mリレーを走ろう！」と誘ってくれたこともあり、迷わずに陸上競技に入学しました。グラウンドに教養学部から初めて



出張尋問に備える鈴木時治さん、妹の千代さんと弁護団
(平成13年2月10日、群馬・栗生楽泉園)

法廷の中だけにとどまらない政策形成活動をハンセン病問題においても活かそうとする意気込みを聞いて、私自身も弁護団の一員に加わりたくと強く思いました。弁護士登録後、東日本弁護団に加わり、清瀬にある多磨全生園、群馬にある草津楽泉園の原告の方々の担当となりました。弁護士として初めての「陳述書」の担当は草津楽泉園の鈴木時治さんでした。苛酷な体験を聴き取りし、その言葉をそのまま記したもののですが、完成した陳述書を読んで「俺の言いたいことを全部書いてくれた」と伝えてくれた時のことを思い出すと、15年を経た今でも胸が苦しくなります。国会への働きかけ、マスコミ対策、市民の方々のキャンペーンづくりと様々な活動を原告の方々とともにさせていただき、2001年5月の熊本判決を受

向かったときは、なかなかグラウンドが見えてこず、「まだかな…道間違えてないかな…」と不安に思ったことを覚えています。その後も、ほぼ毎日の練習の前後に、途中の原生林に寄り道すると、遺跡を見つたり、ふくろうと出会ったり…。道産子ながら「さすが北大！」と思いました。

個人種目は、400mと800m。「どうしてその種目を選んだの？」と今でも訊かれますが、相対的にこの種目が自分の力を発揮できる種目だった…というのが正直なところ。当時は、北海道の大学生女子のこの種目の競技人口も必ずしも多くなく、800mでは個人で、4×400mリレーではチームでインカレの全国大会に出場することができ、4×400mリレーでは、当時の北海道記録を出すことができました。毎年の千葉の検見川での合宿や七大会への出場など、仲間と遠征

け、政府に控訴を断念させるといふ画期的な結果を勝ち取りました。その後も厚労省との定期協議や、遺族の方々の訴訟など現在もまだ弁護団としての活動は続いています。また、その後には提訴された原爆症認定訴訟、中国残留孤児国家賠償訴訟などの政策形成訴訟の弁護団にも参加し、ハンセン病訴訟での経験を活かしています。

◆ホームレスの方々の支援

上京して驚いたのが、路上で暮らすホームレスの方々の存在でした。弁護士になりたての2000年10月、大久保の公園での青空法律相談会に参加したことがきっかけで、その実態を知ることになります。背景は様々ですが、いずれも「もつと早く弁護士に相談する機会があれば、路上ではない暮らしの選択肢があったのに」という方ばかりで、弁護士の敷居の高さを感じました。これをきっかけに若手の法律家で「ホームレス総合相談ネットワーク」を結成し、借金相談や生活保護申請の援助など、総合的なサポート活動を現在も続けています。

◆お芝居から誕生した子どもシェルター

司法試験受験時代に、北海道出身の漫画家ささやなえさんが、

したことが楽しく思い出されません。久しぶりに会っても、すぐに当時の感覚に戻ってしまうのは「同じ釜の飯を食った仲間」だからだな…と感じます。

◆法学部サークル 法律相談室・北法会

10歳のときに、冤罪事件である徳島ラジオ商事件を題材にした「暁は寒かった」というNHKのドラマを観てから弁護士をめざしていた私は、入学間もなく法学部のサークル、「北大法律相談室」に入りました。

卒業生に法律家が多く、毎週土曜日の市民向けの法律相談の後の事例検討会や、年に一回、道内の過疎地で行う「移動法律相談室」にアドバイザーとして参加されていました。そこで毎回、「弁護士の仕事は面白いですか？」との質問を先輩たちに質問したのですが、100%どの先輩も「面白いよ！」との即答だったことが、私

児童虐待問題を「凍りついた瞳」というタイトルで、レディイスクミックに連載しているという記事を北海道新聞の日曜版で目にしました。早速、購入して読んでこの衝撃的な内容で、弁護士になることができたときにはこの問題にも関わりたいと思いました。

東京弁護士会の「子どもの人権110番」というホットラインの相談員に2000年に登録すると同時に、子どもの委員会でも毎年上演している「もがれた翼」というお芝居にも誘われました。毎年違う課題を弁護士自身が脚本をつくり、弁護士と高校生とで一緒に演じるもので、その年のサブタイトルは「こちらカリヨン子どもセンター」。弁護士事務所の方に、子どものためのシェルターがあると

いう設定で、弁護士の先輩たちが「あったらいいな！」との思いを可視化した舞台でした。上演後の反響が大きく、打ち上げの席で設立準備委員会の設置が決まり、翌年には運営を開始できることになりました。末席ですが私も理事を務めています。NPOから始まった歩みも、社会福祉法人化を経て、これまで500人以上の子どもたちが安心と安全を取

が弁護士をめざすことを揺るがないものにしていきました。大学3年からは、司法試験の答案練習会サークルである北法会にも参加しました。この答案練習会は、司法試験の論文試験の模擬テストを法学部の教授陣が出题・解説してくれるという大変ありがたいもので、当時、司法試験委員をされていた中村睦夫先生や大塚龍二先生、中心で動いてくださったいた林靖先生はじめ、多くの先生方に本当にお世話になりました。

◆ハンセン病国家賠償訴訟の 弁護団の一員として

合格まで7回の司法試験を受験し、和光市や札幌での1年半の司法修習を終え、2000年10月に、四谷4丁目の12人の個人的な弁護士が所属する事務所の一員になりました。

東京に就職を決めたのは、「政策形成訴訟」の活動を間近で経験したいと考えたからです。修習生になりたての1999年4月、すでに熊本地裁で始まっていたハンセン病の元患者の方々が原告となった国家賠償請求についての学習会がありました。原告の方々が体験されてきた過酷な隔離政策のもとでの体験を聞いて圧倒されるとともに、弁護団の多くの先輩がHIV訴訟を経験され、そこで培った

り戻す場所として利用してききました。自由を奪われて想像の範囲を越えた体験をしてきた子どもたちと関わって感じるのは、私自身、何かを思いっきりやりきる」という経験ができたことの偉大さです。他者に寛容になれるためには、自身が十分に満たされていないことにはならないのだということを日々感じています。

◆ライフォオガナイズ& アンガーマネジメント

2014年夏に、ひよんなことからライフォオガナイズという資格を、2015年の年始には、アンガーマネジメントファシリテーターの資格を取得しました。ライフォオガナイズは、お片付けを入り口に空間と思考の整理をしていくもの、アンガーマネジメントは「怒りにふりまわされない」をキーワードに、感情のコントロールのコツをお伝えするものです。日々、混乱した状況に置かれ、怒りをおもちのクライアントさんに、これらの資格も活かして法律問題の新たな転機となるためのお手伝いをこれからもしていきたいと思っています。



弁護士と高校生による劇「もがれた翼」(左が筆者) 持ちのクライアントさんに、これらの資格も活かして法律問題の新たな転機となるためのお手伝いをこれからもしていきたいと思っています。

文化・芸術を通じた隣国ロシアとの架橋

暖冬とされた今年も冬将軍は訪れ、ふるさと北海道にはしんと雪が降り積もっています。数ヶ月間も白銀で覆われる美しくも厳しい大自然の大地には、あたたかな人のこころが育っています。



そこには経済の物差しでは測れない、自国の文化と伝統に誇りをもつロシアの人々の価値観が反映されていました。

北海道にとって一番近い外国である隣国ロシアも、白樺の林や広大な雪原という北国の風景と、一見無愛想に見えてその実、温もりのある優しい人情は共通しています。

へ留学。同年12月にはソビエト連邦が消滅、新生ロシアとなる移行の混乱期でした。店頭から食料が消え、留学生にも配給カードが配られる時代でしたが、賃金大幅削減の中でも大学の教員たちは矜持をもち専門の奥深さを語り、ロシア科学アカデミーの研究所では、「さあ、仕事をしよう！」との前向きな気概に溢れていました。

明日の生活が不安な毎日でも夜になれば、小さくさまざまな劇場に明かりが灯り、仕事帰りに、また子どもを連れて、普段着で舞台に足を運ぶ市民の姿が見られました。アーティストたちも生活と、妥協のない舞台に皆必死でした。

ともすれば北方領土問題やウクライナ問題など、政治的に怖いイメージが先行しますが、ロシアは過酷な冬を経るたびに熟成の度を増した深い精神性をもつ文化・芸術大国です。バレエや音楽、世界最高峰の文学などをすぐに思い浮かべられることでしょう。

留学で知ったロシア人の価値観
私は1991年秋にサンクトペテルブルク(当時レニングラード)

やすしい魅力的な物語の展開の奥に、哲学的な問いかけが聞こえてくる作品です。これまでヘラルドの会では通算10回の上演を行い、その中で、ロシアオペラを歌う日本人歌手も育成してきました。



「ヘラルドの会よこはま」のHPが詳しく、ぜひご覧頂ければ幸いです。
<http://heraldyokohama.com/manifesto.html>

ロシア・オペレッタ界の第一人者であるヘラルド・ワシリーエフ氏主演のコメディで、当時日本テレビのハイビジョン放送導入のために試験的に録画限定放映されました。

ヘラルドの会の活動の中でも特に、チャイコフスキーの最晩年のオペラ『王女イオランタ』とレフ・トルストイ原作・プロコフィエフ作曲の『戦争と平和』は、主軸となる大切な演目です。

『王女イオランタ』は1892年にバレエ『くるみ割り人形』と二本立てで初上演されたオペラで、チャイコフスキーの抒情的で美しい曲の中、子どもでも分かり

「名場面で綴るオペラ『戦争と平和』は、ロシア文化フェスティバル2009年参加公演であり、レフ・トルストイの玄孫でトルストイ博物館長ウラジミール・トルストイ版の初上演です。字幕に携わらせて頂く中、トルストイの思想に感動したことを覚えております。

また、レフ・トルストイ没後100年記念として上演された『名場面で綴るオペラ『戦争と平和』は、ロシア文化フェスティバル2009年参加公演であり、レフ・トルストイの玄孫でトルストイ博物館長ウラジミール・トルストイ版の初上演です。字幕に携わらせて頂く中、トルストイの思想に感動したことを覚えております。

す。こちらは北大東京同窓会OG会でも鑑賞頂き、当時のOG会幹事森薫さんが『フロンティア』36号に詳細なご報告をして下さっています。

新渡戸カレッジのフェローとして

実は当時私も中森さんと一緒にOG会幹事をさせて頂きました。初代幹事齋藤紀美子さんから第二代幹事を託され、同窓のOGとの交流を企画運営させて頂きました。現在も数年毎にOG会幹事のバトンが引き継がれており、その度に新たな息吹を楽しく賑やかに和やかな広がりを見せております。



昨年8月、新渡戸カレッジの講演で上映したオペラ『王女イオランタ』(チャイコフスキー作曲) ©NPO法人ヘラルドの会
演出:アナトーリ・ワシリーエフ / イオランタ役: エルヴィーラ・ホフローヴァ

NPO (特定非営利活動法人) ヘラルドの会

1994年4月、ロシアのオペラ・オペレッタやロシア歌曲を紹介する目的で、ロシア文化・文学研究家の藤沼敦子によって設立。モスクワやペテルブルクの劇場で活躍しているアーティストたちを中心に招聘してコンサートやオペラ・オペレッタを開催し、彼らの指導による「ロシア歌曲講座」を通じて日本の若手音楽家の育成をはかる等、積極的にロシア音楽の普及・発展に努める一方、ロシア・日本の教育機関と連携を取り、小・中・高校生の学校間交流や音楽による国際交流など、教育活動にも力を入れている。



ながら、180以上の民族が共生するロシアの広大な風景、ロシアのオペレッタやオペラを一部上映し、日本での文化啓蒙・教育活動や日露間の文化交流を紹介。ロシアでは時代状況に関わりなく文化芸術を大切にする土壌があること(大戦中の文化財保護や現代のメセナなど)や、ロシアのような多

民族の共生する国際社会での異文化への理解の重要性、そして国際的に緊張関係のある現代だからこそ豊かな精神性を培い、善の人格で善の連帯を、と語りました。私たちの後輩である現役の北大生は皆、これから世界を舞台に活躍するダイヤモンドの原石です。私見ですが、北大を進路に選んだ時点ですでにフロンティア精神と志の高さを感じております。自主独立の精神が強いと感じます。新渡戸カレッジで出会った学生たちは皆、真っ直ぐに前を見つめる誠実な頼もしさに溢れています。この学生たちが北海道というおらかな大地に根ざした豊かな教育を受け、また自らの精神性を育み、世界という舞台上で自分自身にしかできない劇を見事に演じきる姿を考えると明るい希望がもてます。雪のようなやわらかな心で、今後も見守り応援をしていければと思います。



幻のコーヒー復活物語



コーヒー苗を育むナーサリーのご夫婦

たったの3トにすぎません。年間40万ト以上のコーヒーを消費する日本にとつては、ほんのわずかなものです。しかしコンテナいっぱい来るのですから、それはそれで結構な量です。

その昔コーヒーの島だったスリランカ

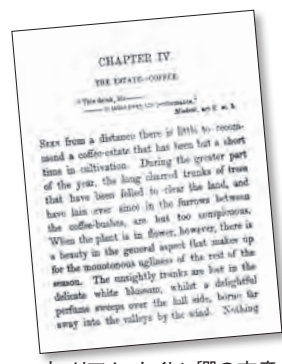
私は、日本フェアトレード委員会の一員として、「幻のコーヒー豆」を復活させるプロジェクトに関わってきました。なぜ「まぼろし」なのかという点、スリランカは、約150年前コーヒープランテーションの国だったのです。いまだこそスリ・ランカ(聖なる輝く島)という国名となつていますが、インドやコロンアル時代には、セイロンと呼ばれていました。「セレンディップ」という言い方でも有名です。

私たちが10年の歳月をかけて携わってきたコーヒー豆がフェアトレードの流れに乗ってスリランカからやって来しました。その量は

一六世紀に最初ポルトガルが進出し、やがてオランダが植民地になります。そのときダッチ・コー

ヒーの名の通り、コーヒーのプランテーションが展開されました。イギリスが後を継いだ頃も、年間5万トもの豆が生産されていました。歴史的な背景としては、ちょうどムガル帝国が300年にわたる歴史を閉じ、有名な『三角貿易』がイギリスの東インド会社によって始められた頃でした。ウィリアム・ナイトンという植物学者が書いた「FOREST LIFE IN CEYLON」という1854年刊の地誌には、「Tea」の字は一つ字もなく「coffee」だけです。コーヒー農園だけで十八ページもの詳細な記述があります。ところが、1868年に「さび病」が蔓延し、セイロン植民地のコーヒー生産は壊滅的な打撃を受けます。

一方、1876年刊の「CEYLON ANCIENT AND MODERN」という



ウィリアム・ナイトン卿の文章

本には、第三十一章にスリランカのコーヒー生産についての記述があり、「新興産地(ジャワなど)との競争に敗れた」と書かれています。また、東インド会社が良質の豆の産地であったスリランカに対し税金を引き上げたため、農園経営者が「生産意欲をなくした」とも書かれています。経費を削減するために管理を怠り手を抜いたので、さび病が蔓延したのではないかと推察されます。ということ、セイロンはコーヒーに代わって登場した紅茶の国に一気に変わっていきます。

日本フェアトレード委員会は、最初ブラジルの有機コーヒー生産者から豆を買い付け、「顔の見える貿易」をしようということ。2002年に発足しました。ポツソフンドという貧しい村の50戸の生産者から50kgずつ合計25トがスタートです。その延長上に、私たちの先輩である鈴木功さん(前号・鈴木さんのコーヒー参照)のご縁もあります。その後、セイロンは紅茶だとい



①収穫されたコーヒー豆



②手作業で丁寧に選別されます



③パルパー(皮むき機)にかけます



④この後洗浄して皮を取り除きます



⑤洗浄後の天火干し

うことで、有機紅茶のフェアトレードをしようと現地に赴いた理事長が、まさにセレンディップな出会いをします。その時のコーヒー豆こそは、ご婦人の手の中にあるわずかな量の赤いコーヒー・チェリーです。その後、スマトラ沖大地震の津波被災地支援一つの契機として、スリランカとのつながりが深くなります。

紆余曲折ののち、2007年か

ら2年間、ジャイカの「草の根支援事業」としても取り組むことも出来て、生産地域の中心ラワナゴダ村に集荷場を建設し乾燥機を設置しました。スリランカ政府も乗り出して、内外の協力でコーヒー苗を180万本も普及、これが現在の3トに上っているのです。ちなみに、ラワナゴダ村はツルシダースの長編叙事詩「ラーマヤーン」の「ランカの項」に描かれる伝説の地でもあります。

プロジェクトを振り返って

今年で、幻のコーヒー復活プロジェクトの草の根交流も10年を経過しました。かかわった者それぞれにいろんな思いがありますが、究極それは何だったのかということを考えてみますと、私は、「じぶん探し」の一

言に尽きるのではないかと思っております。もちろん公式の目的は、「スリランカの熱帯雨林の中にコーヒーの苗を植え、地元のコミュニティが自立的・継続的にコーヒー生産することを助長する」というものです。

が、プロジェクト全体を振り返れば、『三人寄れば文殊の知恵』でもありましたし『情けは人の為ならず』でもあったのです。(スリランカは上座部仏教という日本仏教の源流です。)

ゴーギャンはタヒチで、「私たちがどこからきてどこへ行くのか」と言う問いを発しました。私たちは、インド洋の輝く島で「人つなかりの輪」を目の当たりにしたのです。フェアトレードという「情けの輪環」の中にあつて、「じぶん」というものがどんなものであるかを見出すことは静かな喜びでした。

その輪の中に入って来て下さっ



熊本 宮田喜代志 (S59農経・院)

た多くの皆さんに、心から感謝を申し上げるとともに、次のスツテップへ「輪」をさらに大きくしていきたいと思えます。何千トものコーヒー豆がスリランカを支える産業となる日まで... 『重要なのは行為そのものであつて、結果ではない。行為が実を結ぶかどうかは、自分の力でどうなるものではなく、生きていくうちにわかるとも限らない。だが、正しいと信ずることを行いなさい。結果がどう出るにせよ、何もしなければ何の結果もないのだ』(ガンジー)

合掌

※高島上人は仏足山(スリ・パード)の麓にある日本山妙法寺道場主のお坊様でガンジーと交流のあった藤井日達師のお弟子さんです。熊本県出身。



北海道大学ハンドボール部 29年振り全道優勝!!

北海道大学ハンドボール部OB 平成3年入部 相良信博

平成27年10月4日旭川市にて行われた、全道リーグ戦57連覇中の函館大学(以下函大)との全勝対決の最終戦。29年振りの優勝まで残り2分で北大が函大に対して4点リードするが、退場のため北大が1人少ない状況。
尻に火が付いた57連覇中の函大は王者の意地を見せて怒涛の攻めで3点連取し北大を追い詰めるも、北大が逃げ切り1点差で勝利した!

「悲願の北海道制覇を29年振りに達成」

私が入学してから初めて経験する優勝に嬉しいと感じつつ、優勝を味わっている現役学生が羨ましくもありました。
昭和61年の秋季リーグ戦で函大を倒し優勝して以来、北大は北海道学生リーグで優勝できずにいました。その間、函大が57季連続で優勝し続け、H27年春のリーグ戦でも函大を追い詰めるもあと一歩及ばずに57連敗という結果が続いていました。

私が入部した時(平成3年)でも『打倒函大、優勝・インカレ出場』の目標を掲げていましたが、当時は全く歯が立ちませんでしたし、私が卒業した後も、対函大戦において接戦を演じたことはありましたが、大敗することの方が多かったです。2部降格の入替戦にまわったことも何度もあり「優勝」どころか現実問題として、「一



部残留」が目標の時もありました。
ハンドボールは7人で試合を戦いますが、秋季リーグで4年生が卒部して翌春まで部員5人で練習した時もあつたり、全道のリーグ戦を6人で戦ったこともあります。そうしたチーム存続さえ危ぶまれた苦しい時があったことを知っているの、なおさら今回の優勝は嬉しく思います。

「OB会設立に向けて」

北大ハンドボール部は50年以上の歴史があり、現在の大学1年生が第58代になるにもかかわらず残念ながらOB会がありません。迷(?)選手だった私は大学卒



全日本インカレ(H27・11月7日~11日)での対大阪体育大学戦



宿敵・函館大学を倒したメンバー。最前列が4年生

OB会立ち上げに向けて 叶井 明 (S51法)

北大ハンドボールOB「エルム会」は、約35年前に在京の1974年卒の先輩が北大OBでチームを作って、東京都クラブリーグに参加したのがきっかけです。その後、リーグ戦の参加が難しくなり、それでは1年に一回は皆で会おう、と続いています。当初は、ハンドボール部15期前後の3代程度の集まりでしたが、今年は、上は11期、下は54期と43代に渡る仲間が集まりました。隔世の感があります。
同じ所で、同じハンドボールというスポーツをしたことで、世代を超えて共感しあえるのは、やはりOB会ならではのです。飲み会では、誰もが一気に現役にプレーバックし、何十年も前の八大戦のプレーに「あーだ」「こーだ」と鮮明に語ります。皆の心の中に当時のことがしっかりと生きているのだと思います。だから、毎年同じ話をしても飽きません(笑)。是非、OB会を正式に立ち上げて、いつまでも切らずに続けたいものだと願っております。



OB新年会(H28.1.23 東京駅八重洲にて)

OB会は循環です。自分たちが現役の時に受けた支援を、OBになった時には現役にあげられるようなOB会になっていけばと思っています。

わたれた全日本インカレには関東と岩手からOBが応援に駆け付けてくれ、たくさんOBが現役の活躍を期待し気にかけているのがわかりました。
この機会に他のクラブのOB会を参考に、早速にハンドボール部OB会を設立したいと願っています。
昭和45年から昭和50年ごろに在籍していたOBが中心の東京での新年会に、2年前から参加させていたでいてるので、大

先輩方にも声を掛けてOB会を設立したいと思っています。
私立大は、ハンドボールに限らず色々な競技で、運動能力の高い学生を集めてチーム強化を図っています。北大は学力入試を経て入学してきたチームです。そんな北大が私立大に勝って北海道1位になるのは嬉しいですね。
北大の各クラブチームの活躍を期待し、応援していきたいと思っています。
フレク、フレク、北々大!!

GIRLS BE AMBITIOUS!



篠原 素子 (S62・理)

様々な企画も素敵ですが、気ままに会話を楽しむのもまた良し。ということで、11月7日(土)、銀座の「お肉ダイニング」を謳う居酒屋に、初参加の方を含め11名が集まりました。

年末の喧噪にはまだ遠いものの、華やいだ街特有のエネルギーが心地よい銀座。久しぶりにお会いする参加者の顔を思い浮かべながら、うきうきと店へ向かいました。ところが店へ着くと、用意されていたのはかなり窮屈な座席。半個室のほずだったのですが隣のテーブルとの距離も近く、幹事としては不本意な具合です。そのため、いつもの「ガールズビーアンビシャス」を口に出すのははばかられ、アイコンタクトで乾杯。恒例の自己紹介も無しの会となりました。



席の窮屈さを参加者の皆さんにお詫びしつつも、一方ではどこか懐かしい気持ちにもなっていました。学生時代、居酒屋や先輩の下宿で身を寄せ合いながら安いお酒を酌み交わし、遅い時間まで語り合ったあの雰囲気思い出していたのです。北18条近辺の裏道が頭に浮かびます。当時は安い焼酎とスナック菓子が定番でした。大人になった今はお肉ダイニングというだけあって、料理は地鶏・合鴨・黒毛和牛という豪華さ、お酒の品ぞろえも豊富です。肩が触れ合う

ような距離の近さも功を奏し、おしゃべりがはずみましました。趣味のこと家庭のこと、たわいない会話の中にだれかのちよつとした一言が心に響きます。仕事について話せば、似たような悩みに共感したり、思いがけない裏話に感心したり。

OG会で毎回感じるのですが、立場も年齢も様々ですが信頼できる方々とお話することで、日常生活の中では見落としがちなのがふつと浮かび上がってきます。普段使っていない脳の一部に新鮮な風が送られる感覚、とても言いましょうか。肩の力がすっと抜けて、明日からまた目の前のことにしつかり向き合っている気がしてきます。参加してくださった皆さんが素敵なお方ばかりなので、良いパワーをいただいているのかもしれない。

味だったの言うまでもありません。楽しい楽しい3時間でした。さて、4回のOG会を担当させて頂いたいただきましたが、そろそろ幹事交代の時期を迎えています。当初、ママ会やお琴コンサートなどの企画も上がっていたのですが、やり切れないままとなってしまいました。ご提案・ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございます。そして、申し訳ありません。また、各回とも幹事として至らないことが多々あったかと思いますが、どうぞご容赦下さいませ。

次回は2016年6月頃の開催を考えております。詳細が決まり次第メール等でお知らせします。で、皆様どうぞふるってご参加ください。



多磨霊園墓参

クラーク遺徳顕彰・墓参委員会 平田更一 (S44・理植)



新渡戸稲造氏の墓前で(川添さん撮影)

10月18日(日)、久しぶりに乾いた空気が流れる多磨霊園、15人の方々が集まった。

十和田市新渡戸記念館

玉井啓一(S28・経)、細萱安彦(S35・水)、松田昌幸(S36・農)、伊藤敦之(S42・医)、森輝男(S43・工)、前田直寛(S43・工)、平田更一(S44・理)、福地光男(S45・水)、石川満寿夫(S46・工)、古跡純一(S47・理)、陣谷義道(S51・経)、朝倉仁樹(S52・法)、川添公貴(S56・工)、浅田 清(H1・歯)、坂下節子(H26)の面々である(敬称略、数字は卒業年次)。

相変わらずお参りの方が絶えない多磨霊園であった。2015年、新渡戸稲造氏の遺族と十和田市との間に訴訟問題が発生した。青森県十和田市に三本木原地域の開拓に尽力された新渡戸稲造氏の祖父傳氏の遺徳を顕彰する十和田市新渡戸記念館がある。傳氏の孫、稲造氏の遺品も展示されている。その記念館が耐震検査の結果が強度不足であったという診断のもとで、市が耐震補強建築より一方的な廃館を選択したというニュースが入った。その

後、遺族が記念館の存続を求めて裁判を起こされた。真偽とは別に、遠方なため情報が入ってこなくなった。市は別な場所で遺品を展示すると明言しているが、新渡戸家は承服していない。ただ、円満な解決を願うのみである。

墓参コースについて

恒例のビールで喉を潤し、ジーンギスカンを楽しんだ。その席で、墓参コースに新渡戸稲造氏、内村鑑三氏、有島武郎氏、廣井勇氏プラス伊福部昭氏の提案があった。

伊福部昭氏は農学部林学科に在籍中に「ピアノ組曲」を作曲、クラシックから映画「ゴジラ」の音楽を担当するなど幅広い作曲家としての活動と共に、東京芸術大学教授、学長として芥川也寸志、黛敏郎、松村禎三、石井真木、矢代秋雄などの作曲家を輩出したことでも知られている。

来年度の課題となったが、クラーク遺徳顕彰・墓参委員会という名称からすると、伊福部昭氏は顕彰の範疇外ではないかと思うが、来年集まれた方々はこのようなかえか、お聞きしたいものである。



高木直人 (たかぎなおと)

H4工・合化修士

イカメンで有名な森町生まれ。高校は千歳から1時間半かけて札幌南に通う。小2で始めた剣道は高校まで続け、世界大会3位の岡嶋先生の指導はいい思い出とか。

定年前の起業 目標の50歳で実現

大学院卒業後は大手IT企業に入社。金融系の大型システムに携わり、仕事のこともだんだん分かるようになった頃、「これは本当に自分のやりたい仕事か?」という思いが芽生え、いざれ辞めるなら早めにとしようと、27歳で退職しました。一生働ける仕事をしていきたいという気持ちもありました。「美味しんぼ」の影響で子ども

の頃から料理に興味があつて、大学時代はずっとピザチェーン店でアルバイトし、部屋で友達に料理を振る舞っていました。退職後は自分が元来好きな料理の世界に方向転換です。早速、大学の頃によく通ったスープカレー店の開店も考えましたが、洋食の料理学校に1年間通い、その後、フランス料理店で3年修行しました。スープカレーのお店を持ちたい、と思つてから5年後、32歳の時に店を持ちましたが、最初はクルマでの移動販売でのスタートです。開店場所は、移動販売のメッカ・品川駅港南口が多く、昼間は移動販売、平日夜と土日は自店で営業という生活が3年続きました。スープカレーに薬膳を取り入れたのは、お店としての特色を出したかつ

ドイツ系レーザーメーカーに勤務していた30歳の頃、ヨーロッパに出張する機会が多く、その時に飲んでいたベルギービールとの出会いが、お店を開くきっかけになりました。その後ますますベルギービールの魅力にのめりこみ、土日にスクールに通つて、ピアティストアやベルギービール・プロフェシヨナルマスターの資格も取得しました。そうして、ベルギービールの美味しさをもっと広く知って貰うために、自分のお店を持ちたいと考えるようになりました。

会社を定年してから始めるのは、気力も体力も不安だと思ひ、50歳までに開業、ということを目標に、店の場所や資金なども熟慮して、2015年3月に退職しました。退職する一か月前にスクールで一緒だった仲間とベルギービールのツアーに出かけ、その際に独立開業の話をしたら、その中の一人でベルギービール店で働いている人が、お店の手伝いをしてくれることになり、また、秋の開店に向けて、お店のメニュー作りを手伝ってくれて、開業のシエフが、開業



常備80種類以上のベルギービール専門店
コム・ラ・グーズ (Comme la Gueuze)
https://www.facebook.com/comme.la.gueuze
住所:東京都港区芝5-24-16 御守ビル2F
アクセス:JR「田町駅」から徒歩5分
TEL03-6435-2463 17:00~24:00 不定休



田部井淳 (たべいあつし)

H13工・情報処理修士

栃木県足利市生まれ。寒いのが苦手で、大阪の大学の受験を狙っていたそうだが、友達の影響で北大へ。見かけによらず?大学時代は箏曲サークルに所属し三味線担当。

料理好きが原点 IT会社からの起業

大学院卒業後は大手IT企業に入社。金融系の大型システムに携わり、仕事のこともだんだん分かるようになった頃、「これは本当に自分のやりたい仕事か?」という思いが芽生え、いざれ辞めるなら早めにとしようと、27歳で退職しました。一生働ける仕事をしていきたいという気持ちもありました。「美味しんぼ」の影響で子ども

の頃から料理に興味があつて、大学時代はずっとピザチェーン店でアルバイトし、部屋で友達に料理を振る舞っていました。退職後は自分が元来好きな料理の世界に方向転換です。早速、大学の頃によく通ったスープカレー店の開店も考えましたが、洋食の料理学校に1年間通い、その後、フランス料理店で3年修行しました。スープカレーのお店を持ちたい、と思つてから5年後、32歳の時に店を持ちましたが、最初はクルマでの移動販売でのスタートです。開店場所は、移動販売のメッカ・品川駅港南口が多く、昼間は移動販売、平日夜と土日は自店で営業という生活が3年続きました。スープカレーに薬膳を取り入れたのは、お店としての特色を出したかつ



薬膳スープカレー・シャナイア

http://www.nekoaji.net/shania
住所:東京都目黒区三田1-5-5
アクセス:「恵比寿駅」東口から徒歩約10分
TEL.03-3442-3962 日曜日・月曜日定休
11:30~15:30(L.O.14:30) / 18:00~22:00(L.O.21:00)

たからです。そのために、通信講座で薬膳を勉強したり、移動販売終了後に薬膳レストランでアルバイトをさせてもらい、ノウハウを習得しました。意気揚々と移動販売を始めた2か月目、東日本大震災が起きて、翌週は通りから人が消え、売上はほぼ0。本当に心細かった経験もありましたが、今の店がオープンした翌年にテレビ東京の「路地裏の名店」、2年目に日本テレビの「NEWS every」でお店が紹介されて、本当に運がよかったです。起業してよかったと思うことは、思いついたらすぐに実行できるし、頑張った分だけ結果がついてくること。それは自分の性に合っていると思えますね!

2016年(平成28年)
寒中お見舞い
申し上げます。

北大東京同窓会
役員一同・事務局
会長 杉江 和男 (工・45・工学研究・修)

納谷 峻徳
(工・38・冶金)

東京電力株式会社
取締役会長
數土 文夫
(工・39・冶金)

古河電気工業株式会社
相談役
石原 廣司
(工・40・電子)

石山 喬
(工・42・冶金)

株式会社グローバルリサーチ
チーフ・コンサルタント
岡 隆次郎
(工・42・冶金)

新潟医療福祉大学
教授
戸島 知之
(工・42・電子)

北大スキー部OB会 東京支部
支部長
坂谷 諦
(工・43・冶金)

梅原ビルディング株式会社
代表
梅原 誠一郎
(工・44・冶金修)

北海道大学東京同窓会
会長
杉江 和男
(工・45・工学研究修)

JFEエンジニアリング株式会社
相談役
岸本 純幸
(工・45・冶金修)

株式会社熊野屋
顧問
仲 裕
(工・47・機)

コムスホールディングス株式会社
代表取締役社長
高島 元
(工・47・工学研究電子修)

総合建設コンサルタント(国内&海外)
セントラルコンサルタント株式会社
代表取締役社長
馬場 直俊
(工・47・土木)

フジオーゼックス株式会社
代表取締役社長
深谷 研悟
(工・49・金属)

株式会社NTTロジック
常務取締役第一営業本部長
小野 喜世彦
(工・49・電子)

株式会社フジクラ
上席常務執行役員
成瀬 秀夫
(工・52・電気)

日本コムシス株式会社
代表取締役社長
伊東 則昭
(工・52・電子修)

日鉄住金テックスエンジニアリング株式会社
代表取締役社長
升光 法行
(工・54・金属修)

株式会社東芝
執行役員常務
安達 竹美
(工・55・電子修)

株式会社NTTデータ経営研究所
代表取締役社長
佐々木 康志
(工・55・電子修)

JFE環境株式会社
代表取締役社長
櫻井 雅昭
(工・56・金属修)

有限会社ケーズオフィス
代表取締役
川添 公貴
(工・56・応化)

工学部同窓会 東京支部
支部長
福士 博司
(工・57・合化修)

尾瀬沼畔長蔵小屋
尾瀬ヶ原第一長蔵小屋
代表取締役
平野 太郎
(工・H3・衛生)

北水同窓会 東京支部一同

支部長 樋口 達夫 (水・50・食・修)
副支部長 細見 典男 (水・48・食)
副支部長 菅原 謙二 (水・51・漁業)

株式会社極洋

常務取締役
上居 隆

(水・49・食)

大塚ホールディングス株式会社

代表取締役社長兼 CEO
樋口 達夫

(水・50・食・修)

公益財団法人交通協力会

常務理事
石堂 正信

(法・44)

北海道ニュービジネス協議会

副会長
小林 董和

(法・44)

newbusiness@hnbc.jp

公益社団法人北海道倶楽部
理事・事務局長
DG株式会社
代表取締役

本間 修

(法・45)

向井論法律事務所

所長弁護士
向井 諭

(法・50)

一般財団法人TRANS 代表理事
タクタリ動物病院 総合院長
コロンボ州立医科大学客員教授 日本観音大使 (2011.2013)
千葉科学大学客員教授
タクタリ動物病院 東京医療センター
東京都港区白金5-1-4 TRANS-THEORYSANOONLINE
タクタリ動物病院 代々木
東京都渋谷区南横町4-1-10 TRANS-THEORYSANOONLINE
タクタリ動物病院 久我山
東京都杉並区久我山 0127-71-0000 TRANS-THEORYSANOONLINE
加藤 元 (獣・31)

国際医療福祉大学

副学長
松谷 有希雄

(医・50)

東京フラテ会

会長 松谷 有希雄 (医・50)

株式会社ぶらう

代表取締役
石川 裕一

(法・54)

虎ノ門シティ法律事務所

弁護士
森川 真好

(法・58)

株式会社町村農場

代表取締役
町村 均

(法・60)

JFEスチール株式会社

理事 厚板営業部長
堀江 亮介

(法・61)

社会医療法人 財団大和会 武蔵村山病院

院長 高橋 毅 (医・54)

北大歯学部同窓会 関東支部

会長

寺坂 暢章

(歯・58)

森 和弘

(歯・H1)

日本アイ・ピー・エム株式会社

執行役員 セキュリティー事業本部長
志済 聡子

(法・61)

株式会社サクセスボード

代表取締役社長
萱野 聡

(法・62)

北海道大学

法学研究科長・法学部長
長谷川 晃

中部大学
経営情報学部 経営情報学科

教授
早野 利人

(経・44・経済)



新日本相撲甚句会

理事 師範代
野呂 忠一

(業・39)

東日本旅客鉄道株式会社

顧問
松田 昌士

(法・36・修)

笹田 琢夫

(法・36)

佐藤 尚夫

(法・44)

経済学部

S48年松井ゼミ卒
佐藤 高志

(経・48・経済)

明治ロジテック株式会社

代表取締役社長
陣谷 義直

(経・51・経済)

株式会社フラグマ

中井啓之税理士事務所
社会保険労務士法人フラグマ
代表取締役

(経・60・経営)

株式会社ティリーテクノ

代表取締役社長・農学博士
富田 守

(農・36・畜産)

(株)ブライダルは
北海道大学東京同窓会の
皆様の「結婚」を応援します。



結婚

38年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも『結婚』という形で社会に貢献できる企業を目指しており、女性会員も多いブライダルでは(男女比4:6)賛同を得て「北海道大コース」を設立致しました。この会報誌「FRONTIER」を見たとおっしゃってくだされば、会員の皆様はもとより、ご家族の方でも特別に、「結婚」を特典付(登録料50%OFF)にてお世話させていただきます。

北海道大コース 登録料 **50%OFF**

ブライダルコース ¥226,800 ▶ ¥210,600 etc.
エクセレントコース ¥388,800 ▶ ¥372,600 etc.
価格は登録料・会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

株式会社ブライダルの詳しい情報はホームページをご覧ください。
詳しくは(株)ブライダルと検索してください。

(株)ブライダル

検索

お問い合わせ (月曜定休) **0120-415-412** PC・スマートフォン <http://www.bridal-vip.co.jp>
携帯サイト <http://www.bridal-vip.net/m/>



右のQRコードにて携帯サイトにアクセスできます。(一部対応しない機種がございます。)



東京本社 〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F
Network / 東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

<p>中外製薬株式会社 代表取締役社長 小坂 達朗 (農・51・農化)</p>	<p>公益社団法人国土緑化推進機構 専務理事 梶谷 辰哉 (農・50・林学)</p>	<p>一般社団法人 札幌農学同窓会 東京支部 役員一同 理事長 松沢 幸一 (農・46・農化) 副理事長 服部 昭仁 (農・44・畜産) 副理事長 櫻田 巧 (農・58・農経)</p>	
<p>三晃堂三井印店 代表 三井 晃一 (農・H1・農学)</p>	<p>北大スキー部OB会 東京支部 幹事 北大東京同窓会 広報委員長 札幌農学同窓会 東京支部 組織委員長 全日本学生スキー連盟 広報部長 高橋 寛 (農・62・農機)</p>	<p>共栄火災海上保険株式会社 常務取締役 櫻田 巧 (農・58・農経)</p>	<p>月島食品工業株式会社 代表取締役社長 戸田 信之 (農・51・農化)</p>

名刺広告は1コマ、5千円で、皆様にご協力をいただいています。 hokudaic@poppy.ocn.ne.jp



オススメする人 映像ジャーナリスト小泉玲 (S 61年水産 漁業)

平成元年(一九八九年)四月。
まだ雪が残る北海道大学キャンパス……

『VTJ前夜の中井祐樹』

「VTJ前夜の中井祐樹」は『木村政彦はなぜ力道山を殺さなかったのか』『七帝柔道記』の続編です。単行本の表紙は中井氏の試合後の壮絶なオーラを放つ写真。しかし、血なまぐさい格闘技の話ではなく、北大の後輩の一人が北大柔道部で培った技と精神力を礎にたった一人で世界と戦った記録です。失明



著者：増田俊也
出版：(株)イーストプレス
定価：1,512円 (税込)

しながらも戦う中井祐樹の生き様は読むものに力をくれます。増田俊也氏が大宅賞を受賞した「木村」は日本の柔道史を綿密に調べ上げた戦後文学史に残る金字塔と言える傑作ノンフィクション作品です。増田氏が北大柔道部OBだと知ったのは、月刊「ゴング格闘技」が大宅賞受賞を特集したときでした。
雑誌の表紙には大きく「増田俊也氏大宅賞受賞インタビュー」と

「木村」はゴング誌に4年もの歳月をかけ掲載されていたため編集部も喜びも大きかったそうです。格闘雑誌の連載が文学賞を取る、まさに金星。木村柔道と同じ地平に立つのが七帝柔道です。「七帝」には北大教養部の我々の生活が活写されています。卒業して30年近くが過ぎ、我々が三年の純爛たる宴ははるか夢の如しですが、この本には増田氏の正確無比な筆致で当時のことがハイビジョン映像のように記録されています。増田氏は今も「七帝」の続編を連載中であり、我々同窓生は砂かぶり席でこの物語をじっくり堪能できるわけです。自分の体験した北大生活とはまた違う北大を発見するはずです。

北海道大学の近況

(2015年夏～)

記事は本学ホームページより抜粋。詳しくは：[北大時報](#) [検索](#)

国立研究開発法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC)と連携協力協定を締結

本学と国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)は、9月1日(火)、連携協力協定を締結しました。

本協定は、両機関の連携・協力を推進し、相互の研究開発能力及び人材を生かして総合力を発揮することにより、学術研究と教育の発展、並びに海洋科学技術の向上等に、新たに重要な役割を果たすことを目的としています。

本学事務局1階第1会議室Aで行われた締結式では、まず、本学理学研究院の見延庄士郎教授より協定の概要についての説明が行われ、続いて双方の関係者が見守る中、山口佳三総長及びJAMST



締結式で握手を交わす山口総長と平理事長(右)



第1回連携協議会の様子

ECの平朝彦理事長による協定書の署名が行われました。最後に、山口総長と平理事長からそれぞれ挨拶がありました。締結式は滞りなく終了しました。

その後、引き続き同会場にて、連携協力の具体的な実施内容について報告・協議することを目的として、第1回連携協議会を開催しました。テーマ毎に設置した4つの分科会からの報告があり、活発な質疑応答が行われました。協議会終了後には、低温科学研



施設見学の様子

究所、同位体顕微鏡システム等の施設見学及び懇親会も行われ、関係者は意見交換等により親睦を深めました。本学とJAMSTECは、これまでも海洋科学技術分野全般にわたって、個別の研究課題毎に協力を構築し、交流関係を構築してまいりました。この度の連携協力協定により、相互に協力可能な全ての分野において、それぞれの研究開発、教育・人材育成などの具体的な連携協力を効果的に実施していくこととしています。(創成研究機構)

イチョウ並木の一般開放を実施

10月25日(日)、観光客や市民の皆様が安全に黄葉を觀賞できるように、北13条通りの車両通行を規制して「イチョウ並木の一般開放」を実施しました。雪が舞い肌寒さを感じる一日となりましたが、約3200名もの方々が訪れ、黄金色に輝くイチョウ並木を背景に写真撮影するなど、秋の一日を満喫していました。



北13条通りのイチョウ並木

また、10月24日(土)・25日(日)には、北大元氣プロジェクト採択団体が、イチョウ並木のライトアップなどの「北大金葉祭」を実施し、黄葉の觀賞を盛り上げました。(総務企画部広報課)

新渡戸カレッジ 10月学内合宿を開催

新渡戸カレッジでは、高等教育推進機構及び国際本部の講義室を会場に本年度第2回目となる学内合宿を10月17日(土)・18日(日)に開催しました。

本合宿は、日頃はそれぞれに分かれて学習するカレッジ生が一堂に集まり、多様な人々との協働を通して将来の「グローバル



「新渡戸カフェ」の様子



フェローによる模擬ディベート

リーダー」に求められる資質を磨くことが目的です。山口佳三校長から合宿の意義や目的の説明の後、文部科学省から森田正信高等教育局高等教育企画課長と藤本佳奈国際企画室専門職からご挨拶をいただきました。引き続き午前中には、フェローと1・2年次新渡戸カレッジ生とのグループ・ミーティング並びに3年次新渡戸カレッジ生を対象としたフェローによる進路支援セミナーを実施しました。午後からは、今月初の企画であるカレッジ生、フェロー、留学生、学部のカレッジ関係者が全員参加し、少人数グループを巡回しながらディスカッションを行う「ワールド・カフェ」形



ディベート本番での発表



合宿を視察する森田課長と山口総長

平成27年度 北海道大学公開講座

「人と環境が抱える難問」その解決の最前線」終了

7月2日(木)から23日(木)まで、本年度の公開講座(全学企画)を開催しました。

昭和52年の開始から数えて40回目となる今回の講座では、「人と環境が抱える難問」その解決の最前線」をテーマに、暮らしに密着した話題から国境を越えてグローバルに広がる問題まで、現代社会の多岐にわたる「難問」を研究する本学の教員8名が講義しました。平和と安全保障の問題や、放射

【各回の講義題目と講師】

- 第1回「がんに対する動体追跡陽子線治療」(医学研究科 教授 白土博樹)
 - 第2回「相互扶助の社会環境—先人有島武郎の道—」(文学研究科 教授 中村三春)
 - 第3回「日本における作物栽培の現状と将来展望」(農学研究院 特任教授 岩間和人)
 - 第4回「どうする?!核のごみと鉱山廃水」(工学研究院 教授 佐藤 努)
 - 第5回「インターネットは福音か、災いの源か」(法学研究科 教授 町村泰貴)
 - 第6回「平和は可能か—日本の安全保障を考える—」(公共政策学連携研究部 教授 遠藤 乾)
 - 第7回「エボラウイルス研究の最前線」(人獣共通感染症リサーチセンター 教授 高田礼人)
 - 第8回「若者みる難問・若者が挑む難問—地域青年活動の歴史と現在—」(教育学研究院 准教授 辻 智子)
- 国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)と連携協力協定を締結



講義に聞き入る受講者

性廃棄物の処分、人獣共通感染症をはじめとして、時宜を得たトピックが並んだ講座内容は受講者から高い評価をいただきました。

また今回は、より幅広い年代層の受講を促すための新たな取り組みとして、従来、すべて平日夕方に行ってきた講義の一部を休日（7月20日（月・祝））の昼間に実施しました。この試みも多くの受講者から好評をいただき、特定回のみ受講者は、例年延べ15名ほどのところ、本年度は延べ30名以上となりました。

各回の講義終了後には受講者から熱心な質問が寄せられ、生涯学習に対する意欲の高さが感じられました。

最終講義の終了後には閉講式が行われ、全8回中6回以上出席した83名の受講者に修了証書が授与されました。

（学務部学務企画課）



修了証書の授与

低温科学研究所が「JAXA・平成27年度 第一次観測ロケット」による微小重力実験を実施

低温科学研究所は、9月11日（金）に宇宙航空研究開発機構（JAXA）平成27年度第一次観測ロケットを使用した微小重力実験を実施しました（研究代表者：木村勇気准教授）。



実験に使用した観測ロケット（S-520-30号機）

宇宙ダスト（星のかけら）と呼ばれる微粒子は、天体より放出されるガスから生成します。その中でも最初に生成する微粒子は、ナノメートルのサイズから惑星に至る固体物質の変遷において、非常に大きな影響を与えます。そのため、その最初の物質の同定と生成条件の理解は、宇宙の物質循環を知る上で根幹となります。

本実験では、観測ロケット「S-520-30号機」の先端部に当研究所技術部の協力で作製した「浮遊ダスト赤外スペクトルその場測定装置」を搭載し、ロケットの弾道飛行中の微小重力環境下で酸化アルミニウムやシリカの蒸気から微粒子が生成・成長する過程の直接測定を行いました。この過程は「星のかけらの生成・観測」とも表現

できます。今後、今回の観測結果を活用し、無重力環境である宇宙空間での微粒子の生成条件を理解し、宇宙で最初に生成する物質を明らかにすることを目指します。

今回の実験により、宇宙での物質進化のストーリーの記述や、次世代赤外線天文衛星SPICAによる宇宙史の中での物質進化の解明に生かすことが可能です。同時に星間物質進化のスタート地点である、晩期型巨星で生成する宇宙

新渡戸稲造関係掛け軸2幅を大学文書館で受贈

7月17日（金）、大学文書館では、吉田迪弘名誉教授にご仲介いただき、五十嵐見彦氏（千葉県在

新渡戸稲造は1881（明治14）年に札幌農学校第2期生として卒業し、1887（1898年）には札幌農学校教員を務めました。その後、台湾総督府技師や京都・東京両帝国大学教授を歴任、1918（大正7）年には東京女子大学初代学長に就任します。

受贈した墨蹟の掛け軸は、その1918年の6月9日に新渡戸自身が自作の短歌を揮毫したものです。墨蹟は、以下のよきように読みます。

見ん人の為免二ハ阿あらて奥山耳
おの加誠を咲くさくら加奈
稲造書
大正七年夏六月九日

才気に溢れていた新渡戸は、その才を様々な方面から求められ、常に注目を浴びる立場で活動が続けていました。自作の短歌は、そのような境遇の自身と引き比べ、奥山で人知れず咲く桜の花への憧憬を歌ったものと解釈できます。



（寄贈式）左から、五十嵐氏、新田大学文書館長、吉田名誉教授

1947（昭和22）年には北海道大学で農学博士号を取得し、1952（昭和27）年にスルメイカ大量処理の研究と、常水及び廃水の研究で函館市文化賞を受賞しました。1967（昭

和42）年には函館大学教授に就任し、主な著書に『汚水化学総論』上・下巻（内田老鶴圃新社、1971（1972年））があります。

ご尊父である彦仁氏の遺品として掛け軸を所蔵されて来られた見彦氏は、新渡戸とご尊父に縁のあ

英国レディング大学教員を招聘し共同講義「食料安全保障と貧困削減」を開催

文部科学省スーパーグローバル大学

創成支援事業の一環として

7月7日（火）、英国のレディング大学と「食料安全保障と貧困削減（Food Security and Poverty Reduction）」に関する共同講義を開催し、本学の学生25名が受講したほか、インドネシア及びタイの国際交流協定校5大学の学生32名がインターネットを通じて受講しました。

この共同講義は、文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業「Tokaidoユニバーサルキャンパス・イニシアチブ」（平成26年度採択）により実施している「トップランナーとの協働教育機会拡大支援事業」の一環として行われた活動で、本学5部局（地球環境科学研究院、工学研究院、水

る本学への寄贈をご高慮くださり、この度の資料寄贈式の実施に至りました。

今後、大学文書館では受贈した掛け軸を、歴史的資料として大切に保管し、展示等において多くの方にご紹介して参ります。（大学文書館）



共同講義の様子（Osbah 准教授）

産科学研究院、情報科学研究科、農学研究院）の教員による学内横断型グループと世界の第一線で活

新社会人歓迎

北大東京ジンパ 2016



日にち:平成28年5月28日(土)
場所:江戸川河川敷・妙典BBQ場



詳しくはホームページで

北大東京同窓会

検索



新社会人になったら、東京ジンパに参加しよう!



お問合せ:北大東京同窓会事務局

TEL.03-3211-9211 www.hokudai-tokyo.org

北海道大学の近況



共同講義の様子(近藤教授)

躍する優れた研究者が、協働で提供するものです。
当日は、まずレディング大学農業政策開発大学院の Henry Osahr 准教授が、食料安全保障と貧困削減の課題について、アフリカや南アジアの家族経営農場を例に挙げ、学際的な視点から講義を行いました。続いて、本学農学研究院の近藤巧教授が、ネパールにおける農業生産成長と農家食料安全保障について、経済学的な観点から講義しました。その後、学生はグループに分かれ、「食料システムにおける課題と機会」について議論し、その結果を発表しました。学生は自身の専門と異なる分野のテーマにも関わらず、活発に意見を交換しました。

なお、Osahr 准教授は、来年度開講予定の大学院共通授業科目「PARE基礎論Ⅳ:人口・活



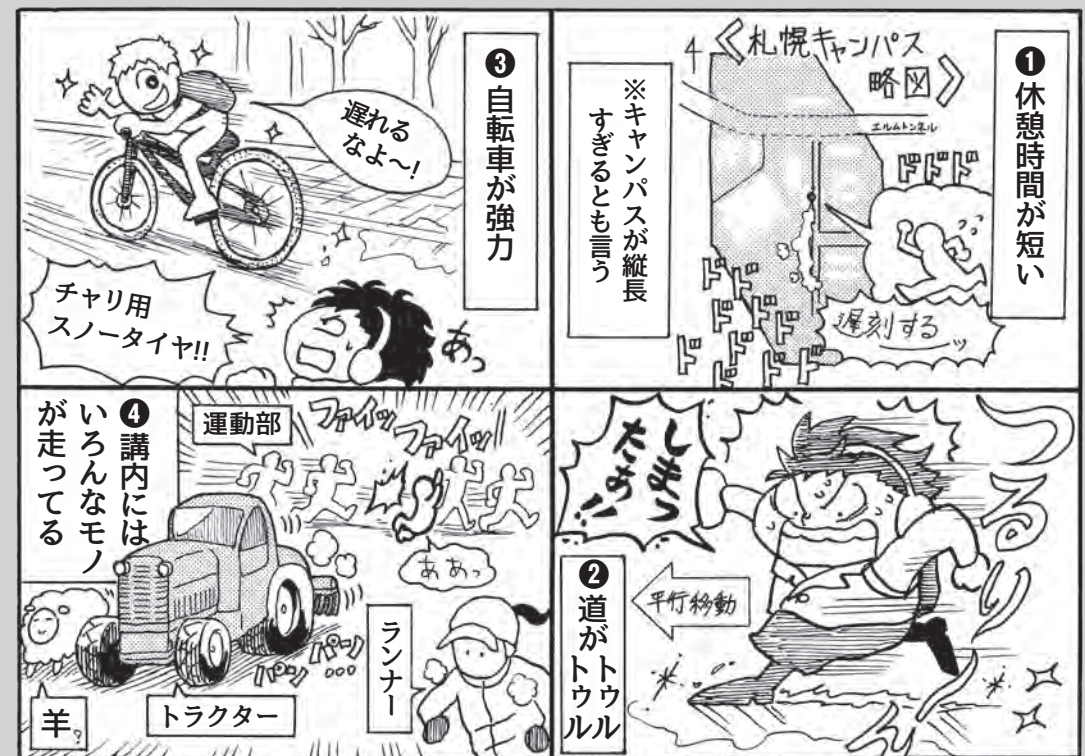
eラーニング教材の収録

動・資源・環境の連環」で講義をしていただく予定で、同科目の事前学習用eラーニング教材の収録を行ったほか、本学とレディング大学の大学間交流協定締結に向けて、本学教員及び職員と協議を行いました。今後、両大学の関係が一層深まっていくことが期待されます。

(国際本部国際連携課)



ディスカッションの様子



イラスト©高野葵(H25環境科学院)

歳久人の北大あるある

北海道大学東京同窓会 入会申込書

※ホームページ(Yahoo Japan等で“北大東京同窓会”を検索し“入会案内”のページを開く)からの申し込みも可能です。

[FAX]03-3211-9288

フリガナ 氏名		
卒業学部・学科	学部	学科	
卒業年次	昭・平	年	卒業・修士修了
自宅住所	〒() 電話： FAX： E-mail：		
勤務先 所属・役職 勤務先住所 電話： FAX： E-mail：		
【優先連絡先E-mailアドレスの指定】 ・ご自宅、勤務先にE-mailアドレスをお持ちの場合、優先連絡先の方に○印をつけてください。 【優先 発送物宛先の指定】 自宅・勤務先いずれか優先する方に○印をつけてください。 【会費納入方法】 ・入会申込受領後、会費案内をお届けしますので郵便振替または銀行振込にてお支払いください。			

総会・講演会・懇親会のお知らせ

東京同窓会

日時：平成28年5月7日(土)17時より
 場所：交詢社(東京都中央区銀座6-8-7)
 ※詳細はWEB(hokudai-tokyo.org)をご覧ください。
 ※東京同窓会会員には総会案内を送付致します。
 同封のハガキにてご返信をよろしくお願い致します。



札幌農学同窓会東京支部

日時：平成28年2月26日(金) 受付：17時15分より
 場所：学士会館3F 320号室

【総会】 開会18時より
 【講演会】 18時30分より約1時間
 講師：北大大学院農学研究院 教授 横田 篤氏
 演題：「北大農学部研究院・農学院・農学部の動向」
 【懇親会】 講演会終了後より開催、閉会21時

応用マテリアル工学コース同窓会

旧)材料工学科・旧)金属工学科
 旧)冶金工学科・旧)生産冶金工学科

日時：平成28年3月22日(火)18時～20時
 場所：ピアホール ライオン銀座7丁目(6階)
 ※昨年と同じ場所です。
 問い合わせ先：matealumni@eng.hokudai.ac.jp
 同窓会総務担当 上田幹人

北鐘(工学部化学系東京同窓会)

日時：平成28年4月2日(土)15時より
 場所：秋葉原UDX

【講演会】
 講師：高木直人(H4 合成化学工学科修士)
 演題：「ベルギービールの魅力(仮題)」
 ※詳細は北鐘WEB(hokusho.org)をご覧ください。

学部、学科、部、サークルなどの同窓生の活動情報をお寄せください。フロンティアにて紹介させていただきます。
 次号は8月発行になりますので、秋・冬の予告にご利用ください。

原稿募集します

学部、学科、ゼミ単位の集まり、卒業生同士や恩師を交えた会合などありましたら、是非その様子を「フロンティア」にご寄稿ください。また、クラブ、同好会、趣味の会のイベント・集まりや旧友同士の軽い飲み会など、卒業生の元気な姿を幅広く誌面でご紹介しますので、気軽にペンをとるか、キーボードをたたいてください。原稿量は1行15文字で半ページ程でしたら50行前後に写真1枚。1ページサイズでしたら、100～120行に写真1～2枚。

問い合わせ・送稿先は東京同窓会事務局へ。

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目7の12 サピアタワー10階

TEL.03-3211-9211 FAX.03-3211-9288

Eメール hokudaic@poppy.ocn.ne.jp

政治、経済、
社会を直撃

財界さっぽろ

情報を先取り、タブーに挑戦



東京都内で「財界さっぽろ」は次の書店で
お求めになれます。

- | | |
|--------|------------|
| 紀伊國屋書店 | 新宿本店 |
| 三省堂書店 | 神保町本店・有楽町店 |
| 丸善 | アークヒルズ店 |

Amazonでも
購入できます。

毎月**15日**発売
北海道最大の
部数を誇る **月刊総合誌**

年間購読のお申込は、
お電話かホームページで

財界さっぽろ

株式会社 財界さっぽろ

札幌市中央区南9条西1丁目1番15号 TEL: 011-521-5151
代表取締役社長 舟本 秀男 <http://www.zaikaisapporo.co.jp/>

訃報

(平成27年7月以降にご逝去の
お知らせをいただいた方々。敬称略)

泉淳 (医S 24 医専)、深堀征夫
(工S 37 鉦)、猪木幸男 (理S 21
地)、宮田靖久 (獣S 37 獣医・修)、
西谷真樹 (工S 31 電)、佐野國
臣 (法S 32)、野尻芳郎 (工S
28 機)、宍戸昌夫 (医S 17)

徐啓楠 (法H 26 研究科)、石橋
祐介 (法H 3)、高山元 (農S
39 農工)、伊藤宏 (工H 3 合化)、
横田浩 (経S 60 経済)、小野元
也 (地環科研H 17 大気海洋)、
水野元貴 (経H 6 経営)、幸坂
浩 (文H 13 人文科)、三上雄貴
(文H 21 人文科)、山本沙也加 (理
H 27 化)、谷藤公貴 (医H 23 保
看)、福井麻里 (法H 20)、岩波
秀晃 (環科H 21)、佐藤由佳 (法
H 22)、高田茂樹 (農H 26 生物)、
岩田聡 (経S 63)、川口谷真理
(経S 63)、杉田直紀 (工S 61 原
子)、松田秀俊 (工S 44 電子)、
山口浩一 (経H 5 経済)、江川
美奈子 (農H 27 森林)、佐藤圭
壯 (経S 61 経営)、佐藤こゆり (文
H 16 人文)、國木賢一 (薬H 19)、
佐野隆 (工S 52 情報)、奥山祐
輝 (工H 26 修士)、佐々木美佳
(法H 2)、我妻孝則 (医H 25 院)、
児玉一郎 (経H 1 経営)、大友
俊彦 (獣医H 3)

新入会員

(平成27年7月、敬称略)



青函
物語
はじまる

北海道日建設計は今年 59 周年を迎えます

みんなで「つくる」を大切に

北海道日建設計は、日建設計のグループ会社として 1956 年に誕生しました。
これまで、北海道の人と風土に根ざした「生活環境や社会環境づくり」を目的に、建物をつくるだけでなく、多くの人々との交流をもとに、みんなで「つくる」を実践してきました。これからも、環境に配慮した美しい景観の創出をはじめ、人々が「生きる場」としての街づくり・空間づくりに取り組んでいきます。

取締役会長 菅野 彰一
(工・昭 53・建)

nikken.jp **HNS**
HOKKAIDO NIKKEN SEKKEI LTD

株式会社 **北海道日建設計**
札幌市中央区大通西 8-2 住友商事・フカミヤ大通ビル
TEL: 011-241-9530 FAX: 011-261-7673
URL: <http://www.h-nikken.co.jp>

北海道の花

絵と文 鮫島 惇一郎

いくたび迎えた春であつたらう。勝手に過ぎてゆく時の移り変わりの渦の中で、春という季節は幾つになつても、何回経験しても文句なく嬉しい。足の先から頭のとっぺんまで「氣」が勝手に漲るといふことらしい。小出しに訪れる内地？の春とは違つて、北国の春は激情的にひとまとめにやってくる。白かつ

た山肌に焦茶の斑模様散りはじめると、あつという間に山は春の装い。

札幌のとなり江別の一角に小さな丸太小屋を建てた。野幌丘陵の端であつた。原野の中に貧弱なカラマツ並木を背にして、ポツンと小屋は建つたが、淋しすぎる！

樹を植えてやろう、話はすぐに決まつた。早くおがるシラカンバがいい。ハルニレもヤチダモも、カツラも、ナナカマドもいい、花木も欲しい。ヤマザクラとキタコブシ、加えてライラック

キバナノアマナ



クなど忙しいことになる。

名も知れぬ草々は剥がし、代わりにスイセンやクロッカス、シラーだのキオノドクサだのスノードロップなどと気ままに植へ込んだ。

当初、鉛筆ほどであつた木々はそれなりに太り、いつか見違える林地へと変化を遂げる。十数年たつたある日、林床にどこから来たのか知らないが、アズマイチゲやキクザキイチゲの白い花が勝手に咲いた。そして一論、ハルニレの傍にキバナノアマナが慎ましく咲いた。

小鳥や小動物が運んできたのか、それとも埋蔵種子だったのかなど勝手に思う。そして或る日、キバナノアマナの黄で、この庭が埋まる日がくるかもしれない。

もう二十年も以前になるうか、農学部や理学部のハルニレ林の芝生が真っ黄色に埋まつたことがあつた。遠目にはタンポポかと思えたが、なんとキバナノアマナがびっしりと地面を占有していたのだ。古い図書館などの周辺は圧巻であつたが、近ごろはどうなつたか。栄枯盛衰ふとそんな言葉が浮かんだ。

(昭25理・植)

編集後記

■今回は東京同窓会の委員長座談会を企画し、同窓会に対する思い・将来像を吐露して貰いました。サピアタワーの同窓会事務所金曜日の20時に集まり、サツポロ黒ラベルを飲みながら、本音で話しました。校友会構想を皆受け入れつつ、新入生が入会するシーン在頭の中に浮かべ、分かりやすいブランドディングが必須とコンセンサスが得られたのは意義がありました。広報委員会は新たに若手女子をメンバーに迎え、男女半々の体制となり、年代や出身学部の多様性を増して行きたいと思ひます。

(高橋寛)

FRONTIER 北海道大学東京同窓会会報

第48号 2016年(平成28年)2月10日発行

発行所：北海道大学東京同窓会
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
サピアタワー10階

☎03-3211-9211 ☎03-3211-9288

Eメール hokudaic@poppy.ocn.ne.jp

H P http://www.hokudai-tokyo.org/

発行人 杉江 和男

編集人 高橋 寛 島田 久 川添 公貴 延兼 千代
高野 葵 原田 教子 青山 千穂 中井 啓之
陣谷 義直 八谷 俊雄 川村 太郎

